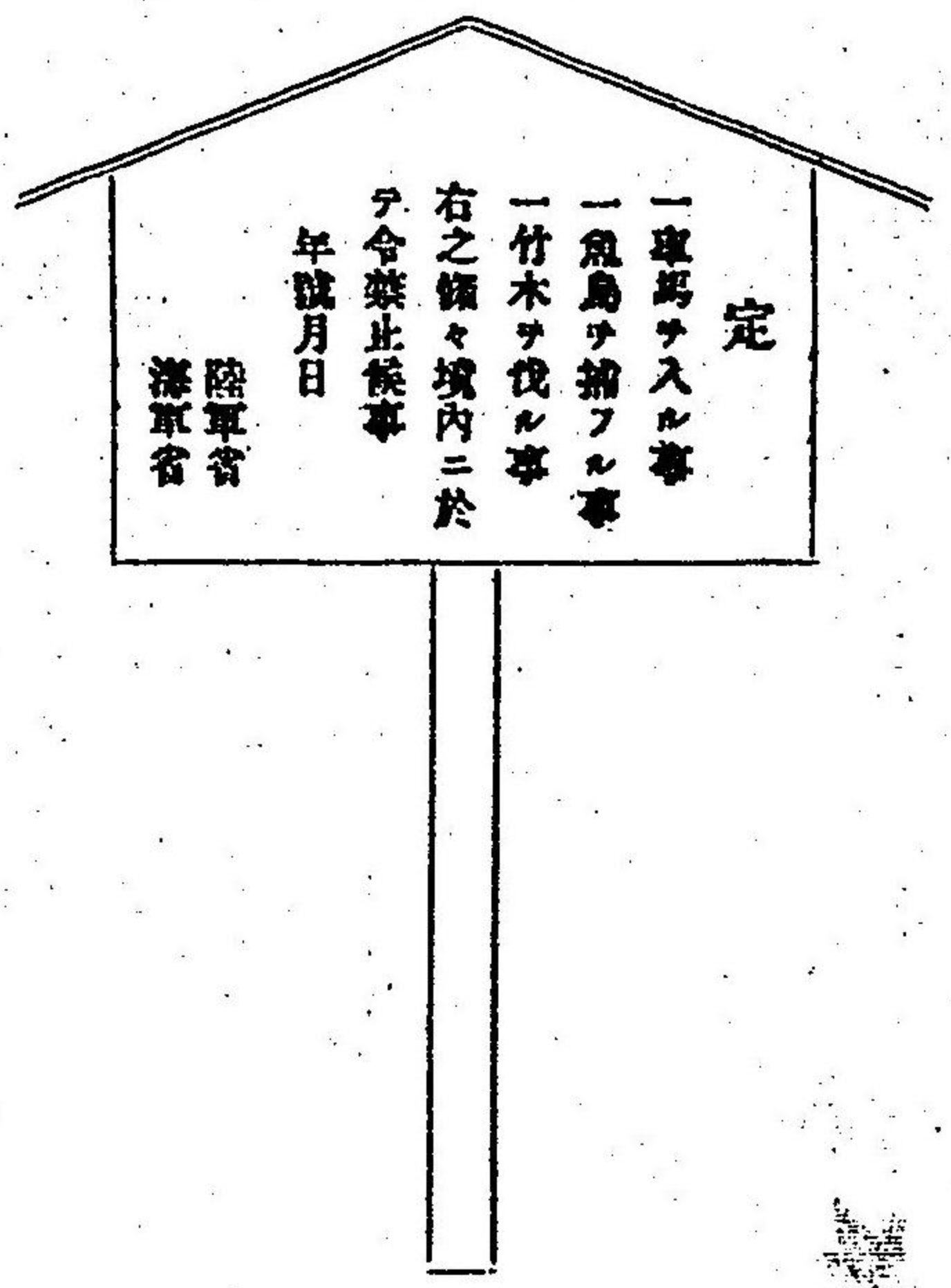


制札雜形



〔明治十一年十月二十三日陸軍省ヨリ房長へ達〕此度招魂社境内へ左之雜形之通り制札建設相成候然ル處同社大祭ノ節各種兵隊々伍ヲ組ミ及ヒ文武官員大禮服或ハ正服用參拜ヲ要スル輩ニ限リ是迄之通乘馬不苦候條爲御心得及御通知候也

〔明治十四年十月二十八日東京憲兵隊へ達〕兼テ及指令置候靖國神社境内取締ノ儀來三十日午前ヨリ實施可致此旨相達候事 但シ分遣所受取之儀ハ工兵第一方面本署へ可打合事

〔明治十四年十一月二十九日工兵第一方面本署へ達〕靖國神社境内其署出張所ノ

儀證議ノ次第有之本月限り廢止可致此旨相達候事

〔明治十六年五月五日東京憲兵隊へ達 五八號〕本日午後第八時靖國神社境内ニ於テ嘉永六年癸丑以來殉難死節之内高知縣士族故武市半平太以下八十名招魂式被爲行候ニ付該場取締可致此旨相達候事

〔日記抄録〕明治三十六年十月十四日境内巡查派出所建設ノ件許可セラレ同日ヨリ晝夜巡查二名宛派出ス同四十年六月二十日取締請願巡查ヲ廢シ本日ヨリ憲兵之ニ代リ巡視ス同七月二十日境内憲兵派出所建設シ晝間一名夜間二名ノ規定ナリ

〔明治三十六年十二月二十六日陸軍大臣官房ヨリ通牒〕衛戍條例第三條ニ依リ變災時ニ於ケル靖國神社並附屬建設物保護ノ爲メ受持赴援隊ヲ近衛歩兵第二聯隊ノ一小隊ト相定候旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付爲御心得及御通知候也

管轄廳

招魂社創立當時には、軍務官の管轄に屬し招魂場御用係又は祭事

係と云ふを置きて一切の社務を掌理せしめ、後に兵部省となりて省中に神務局御用掛ありて之に當り、明治五年二月同省を廢して陸海軍兩省の置かるゝや、更に兩省の管轄に隸して、常務は陸軍省に於て専ら監理することゝなり、社地及建物は築造局、祭典は秘史局の管する所となり、後第一局第四課又は第五局第九課、會計局又は總務局第四課等へ變轉し、十二年六月に至り神社に列格のことあるや、兩省の外に内務省を加へて三省の管轄する所となり、祭典のことは陸海軍兩省、職員の黜陟は内務省、經理に屬する事務は陸軍省にて分擔處理したりしが、二十年三月閣令第四號の發布以來、内務省を離れて再陸海軍兩省に屬し○但海軍省は常務に關しては陸軍省に一任し時々協議を受くるなり、陸軍省官制改革の結果、庶務は同年六月總務局第一課に移り、二十

三年十一月に至り副官部の監督に、二十四年に至りて總務局庶務課に轉し、二十九年四月に至り大臣官房に屬する所となれり。經理のことは二十八年七月までは會計局第三課に屬し、同年同月より經理局第三課に移り、後、二十九年四月に至りて總て大臣官房の監督する所となりて現今に至れり。

〔明治二年八月二日會計局へ達〕 招魂場普請之儀ニ付テハ自今同場御用掛見分ヲ受候上可取掛旨作事方へ相達可申候事

〔明治五年四月山縣陸軍大輔ヨリ通牒〕 招魂社地及建物共自今築造局管轄申付候事但祭典ノ儀ハ秘史局所管ニ候事

〔明治六年十二月二十三日第一、第四、第五局へ達〕 招魂社事務取扱ノ儀別紙ノ通改定候條此旨相達候事

〔別紙〕 一、招魂社ノ儀ハ陸海兩省管轄ノ處陸軍省ニ在テハ第一局管轄タルヘキ事
一、祭資其外臨時經費及ヒ物品等ハ其時々第一局ヨリ申立第五局ニテ相渡可申事
一、祭資其外常費及ヒ物品等都テ定額有之分ハ其時々檢印帳ヲ以テ直ニ第五局ヨ

ヲ受取可申事

但從來ノ定額有之分ハ乃チ之ヲ用ヒ其外定額無之分ハ追テ取調更ニ可伺出事

一、建築及ヒ修繕等ノ事件臨時ノ分ハ其都度都度第一局ヨリ申立第四局ニ於テ出來可致事 一、尋常ノ小營繕等有之節ハ其時々檢印帳ヲ以テ直チニ第四局第一經營部ヘ掛合候様可致事

一、大祭ノ節競馬場及ヒ相撲場等ハ第一經營部ニ於テ取設候様可致事 一、大祭ノ節相撲執行方ノ儀ハ第五局ニ於テ取扱候様可致事

〔明治十二年六月四日太政大臣達〕東京招魂社之義今般靖國神社ト改稱別格官幣社ニ被列候ニ付テハ自今內務、陸軍、海軍三省ニ於テ管轄可致尤祭典其他ノ常務ハ左ノ區分ニ從ヒ可取扱此旨相達候事 一、祭式ハ神社祭式ニ準シ陸軍、海軍二省ノ官員之ニ臨ミ執行スヘシ 一、祭式ノ外施設ノ廉並例典ハ從前ノ通 一、神官ノ進退黜陟ハ內務省ノ專任タルヘシ 一、神官増員若クハ増給ハ內務、陸軍、海軍三省協議ノ上具申スヘシ 一、建築修繕等及一切ノ經理ハ陸軍省ノ專任タルヘシ 但本殿拜殿等ノ模様替ニ係ル事ハ三省ノ協議ヲ要ス

〔編者云、後ニ十二年七月十九日ノ伺ニヨリ神官ノ俸給其他給與ニ關スルコトハ陸軍省撥當ノ事トナリシナリ〕

〔明治十九年二月軍法課長ヨリ宮司ヘ達〕靖國神社之儀ハ內務、陸軍、海軍三省ノ管轄ニ屬スト雖モ概ネ陸軍省ノ管理スル所ナルヲ以テ其內務省定ムル所ノ一般規則外ノ事務ハ本省ノ例ニ準セサルヲ得サルモノニ付今般別紙之通事務取扱心得方被定候間此段及御達候也 但從來定ムル所ノ法則等之ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ノ儀ト御承知可有之候也

〔編者云、別紙略ス〕

〔明治二十年三月十七日閣令第四號抄錄〕靖國神社宮司以下ハ陸軍省、海軍省ニ於テ之ヲ補ス

〔明治二十年六月八日陸軍省軍務局ヨリ宮司ヘ通牒〕今般當省官制改正相成候ニ付テハ靖國神社及遊就館ニ係ル事務ハ當課ノ主任ニ相成候條此段申入候也

〔明治二十三年十一月二十一日改正神職服務規定第一條第七項〕人事並ニ臨時ノ事務ニシテ例規ナキモノハ陸軍省副官ノ指揮ヲ受ケ處理ス可シ

〔明治二十三年十一月二十一日改正經費取扱手續第一條〕出納ニ付テハ會計局第三課長ノ監督ヲ受クヘシ

〔明治二十八年七月二十八日改正經費取扱手續第一條〕會計局ヲ經理局ニ改ム

〔明治三十九年四月十三日改正經理規定第三條〕本社ニ關スル經理事務ハ陸軍省

能樂堂

最初の能樂堂は、其規模狹隘。○其建坪三十七坪今の相模にして僅に大場の西角部にありしなり祭の餘興にのみ供せられしに過ぎざりき。今の神樂殿は即ち其舊態なりとす。○殿宇神樂殿の條參照すべし然るに明治十三四年の頃岩倉右府首唱の下に成りて、英照皇太后の御眷顧を蒙りし芝公園内の能樂堂をば、能樂會長土方伯爵○久より三十五年九月九日を以て本神社に獻納することとなりて、事、皇后陛下の御聞に達し三十六年一月十五日を以て金壹千圓を賜ひ、該移轉工事も日ならずして竣成し、同年十月十五日竣工奉告祭を執行す。總建坪二百八十一坪五合三勺五才

にして優に千餘名を容るゝに足れり。四十二年五月食堂成るに及びて設備完成するに至りたりといへども、爾來年々斯道隆盛に至り往時輪奐宏壯を稱したりしも、今にしては甚然らず。然れども玉座の設あり、貴顯の席あり、能樂堂としては世間その比なかるべし。恐くも皇后陛下には深く御心を斯樂に注がせ給ひ、四十年以降は皇族遞番御開催にて必年一回の行啓あり、皇太子殿下各皇族を始め華族文武百僚に陪覽を賜ふ、實に昌代の餘澤と云ふべし。

大祭には餘興として必此堂にて斯樂を演せしめ、軍人及祭神の遺族に觀覽せしむること最初より變ることなし。○餘興能樂の條參照す學に關する集會の爲には貸與を許すことなれば、四時演能者の絶ゆることなし、貸與規則は三十八年三月に定め、三十九年十月改正せり。

〔日記抜萃〕明治三十六年十月十五日芝公園内ノ能樂堂ヲ境内ニ引移シ立替造成、今日奉告祭執行、同三十八年三月三十一日能樂堂貸與規則ヲ定ム、同三十九年十月

十三日能樂堂貸與規則ヲ改正ス、同十二月二日伏見宮殿下御來觀、同四十年六月十三日有栖川宮殿下御開催能樂御觀覽ノ爲、皇后陛下行啓、皇太子殿下並妃殿下各皇族同妃殿下台覽各華族等ニ陪覽ヲ許サル、同十月二十二日米國艦隊乘組將校等ノ爲ニ、同二十三日清國遣米大使唐紹怡ノ一行及清國公使館員ノ爲メニ日本郵船株式會社主催ノ能樂アリ、同四十一年六月二十四日東伏見宮殿下御開催ノ能樂御觀覽ノ爲、皇后陛下行啓、皇太子殿下同妃殿下富美宮泰宮兩内親王殿下各皇族台覽各華族等ヘ陪覽ヲ許サル、同四十二年六月十二日伏見宮殿下御開催ノ能樂御觀覽ノ爲メ、皇后陛下行啓、東宮殿下同妃殿下小松宮大妃殿下東伏見宮殿下同妃殿下台覽華族其他四百五十餘名ニ陪覽ヲ許サル、同四十三年六月十日開院宮殿下御開催ノ能樂御觀覽ノ爲メ、皇后陛下行啓遊バツレ、皇太子殿下同妃殿下台覽各華族等ヘ陪覽ヲ許サル、コト昨年ノ如シ、

〔明治三十五年九月九日能樂會々頭土方伯爵ヨリ宮司ヘ願書寫〕東京市芝公園第二十號地ニ設置有之本會所屬能舞臺及附屬建物共總建坪參百四十一坪五合在形ノ儘今般靖國神社ヘ奉納可仕候抑該舞臺ハ明治十四年故岩倉右府發起シ同志者ニ謀リ我國古有ノ式樂タル能樂ヲ維持發達セシメトシ又、英照皇太后ノ能樂御觀場ニ供セムトスルノ趣旨ヲ以テ資金ヲ贈出建設シ而シテ青山御所ヨリハ毎歲

補助金ヲ賜ハリ其恩賜ニ依リテ維持シタルモノニシテ初メ其同志者ノ團體タル能樂社之ヲ保管シ後能樂社ヲ能樂會ト改稱シテ之ヲ保持シ明治二十九年能樂會ヲ設立シタルトキ之ヲ繼續シ能樂會ハ附屬能樂堂トシ今日マテ持續シ悉クモ、英照皇太后陛下、皇后陛下敷度、行啓能樂ヲ御覽アラセラルタル所ナリ蓋維新沿革ノ後將ニ廢滅セムトセシ能樂道ヲ挽回シタルハ該能舞臺ヲ設立シタル効果ニシテ又屢、行啓ヲ恭フシタルモノナレバ貴重ノ歴史ヲ有スル舞臺ニ有之候條御受納ノ上在形ヲ以テ永ク御保存被下候様希望仕候尙又御移築ノ後ニ於テ帝室ノ御用能有之節貸渡サル、ハ勿論本會並本會々員本會樂師等演能ノ爲拜借相願候節ハ御貸付相成度但シ其催主ニ於テ觀客ヨリ觀覽料ヲ徵スル場合ハ相當ノ料金奉納候様可致候條右豫メ御許容被下度候此段相願候也、明治三十五年九月九日〔能樂堂所揭額寫〕能樂之行也久矣、明治維新百技共盛而斯樂獨衰、蓋以高尚雅難入俚俗也、所在舞臺逐年廢絕、樂師多聚東京而無足場以演其技者、識者憾焉、十三年故岩倉右府提唱謀設一場以恢復斯樂、和者不尠、能樂堂於是乎起矣、堂在芝公園榎山、篤志者贖金以經營之、有舞臺、有御覽所、有觀場、結構宏麗、頗爲美觀、工費巨萬、皇太后特賜金助之、因會諸流於一堂、月次演奏、皇太后、皇后屢親臨焉、於是樂師奮勵、倍修其業務、衆亦觀感爭學其技、樂師亦至設場於其家、演

技月不下十數次、謠曲之聲、鼓笛之音、洋洋盈都門、此堂之用不復若前日也、既而會員有謀曰、宜遷諸靖國神社境內、以充祭時獻奏、再聽他演技、則此堂永不朽也、乃具申當路、得允、三十六年、移築工竣、余以爲斯樂之盛、致有今日、此堂固有効焉、創立之者能樂社、繼承之者能樂會、二十餘年間、拮据獎勵之功、亦不尠矣、因叙其梗概、以爲記、

明治三十六年十二月

正二位勳一等 伯爵 土方 久 元 撰

從三位勳二等 股 野 琢 齋

相撲場

相撲場は、初めは今の能樂堂の地に在りしを、芝公園より能樂堂を移轉建設するに當り、現今の地に轉換せられたり、即ち明治三十六年十二月七日改設工事を許可せられ、翌三十七年一月九日より二十九日間石垣の修造を施し、更に同年四月三日より同十三日まで

該所北側の石垣を修築して漸く完成し、一千二百坪の地、能く二萬餘人を收容するに足るの好地域となれり。○此地は明治二十年造神宮使
二年度及四十二年度伊勢神宮遷宮の
所用として神寶を鍛冶せし所なり、其地形たる四邊高起して中央漸次に低下す。而して其最低處にて龍鬪虎搏の國技を演ず、その觀覽に至便なること恐らくは天下無比なるべし。此の適地を得たりしより斯道彌發展し、例大祭臨時祭等の際には必餘興として斯技を此處に演じ、恐くも皇族の台覽を始め、祭神の遺族、朝野の縉紳、衆庶雲集、嘗至、其盛況固より筆紙に悉し難しとす。○相撲場貸與規則は三十七年一月十五日定る、猶餘興の條參照

遊就館

遊就館は、明治十二年一月六日招魂社境内に神靈を慰安し且威徳を欽仰する爲め、掲額並古來の武器陳列場一字を新設することを許可せられ、同五月六日より起工し、同十四年五月四日落成せり。是れ實に本館の起原にして、自ら本邦古來兵器を以て幣となして神庫に納めし尙武の國俗に適合す。其の名稱は荀子勸學篇の遊必就士の語より採り、○陸軍少將田中伯爵光顯の撰なりと云ふ、後に故陸軍大將有栖川煥仁親王の親筆を賜ひて之れを額面に製し以て館の正面に掲ぐ其建設費用は明治十年戦役の際華族會館よりの軍資獻納金三萬圓を應用し、○建築費三萬五千元、八百拾貳圓其の構造は原型を伊太利亞古城型に採り、○工部省雇外國人「カヘレチ」の圖案に依り、工事は陸軍總建坪二百坪一合八勺一才なりき。○内二層八十六坪三合五勺外ニ木造瓦葺廁二棟後、大砲陳列場として本館の東方に接して増築を企て、十九年五月より其工事に著手し、二十年四月二

十七日に至り落成す。○二層建坪凡三十坪、平家建坪凡四十五坪二十七年六月二十日震災の爲め、所々龜裂を生ぜしを以て大修繕を行ふこととなり、同年十月一日著手、同年十二月二十日完了せり。○費用金三千七百三十五圓なり三十五年四月二十五日、遊就館事務所附屬舎、及假戦利品陳列場成る。然るに二十七八年役、三十三年事變、三十七八年戦役の都度戦利品其數夥多を極めしを以て、館の西北の園地を埋め大増築を計畫し、此れが建築委員數名を設けられ、陸軍少將本郷房太郎該委員長を命ぜられ、陸軍技師之を擔任し、四十年四月二十五日を以て起工し、四十一年九月二十四日に至りて落成せり。○其新築總坪數三百八十四坪四合一勺、費用金十五萬四千九百九十圓斯く數回の増築を経て規模宏大、巍然として雲表に聳え、東都の一偉觀たるに至りぬ。されど建物の完成と共に陳列品を整理せざる

へからず。是に於て同年八月二十五日更に物品陳列委員を置かれ、
醫務局長森林太郎委員長を命ぜられ陳列整理し、同年十一月三日
に至り新舊兩館を通じ、一般の人民に觀覽せしむるに至れり。陳列
する所の什物は、本神社創建當時より人民の寄獻せし刀劍及祭神
に關係せる什具を始め、陸海軍より寄附せられし戦利品及參考品、
又は諸家の寄託出陳等なり。十五年二月開館當時に在りては、
寄附品數一千百十一點、諸家出品四十一點なりしが、爾後漸次増加
し、二回の大戦役を経て館品及諸家品共に數千點に及び、時代を分
くること十八、原史時代より明治三十七八年に至る。宮内省御物御貸
下のことは、十九年五月に始まり、二十九年より十一月の例大祭にの
み御貸下のこととなり、國寶出陳のことは四十二年十二月に起り

ぬ。

人民の觀覽は明治十五年二月二十三日陳列品來觀委託寄贈規則
を定めて、同月二十六日より毎日曜日を以て無料觀覽せしめ。十七
年四月九日より水曜日をも加へて日、水の兩日となし、十九年四月
七日より觀覽料大人金三錢、十才以下六才以上金一錢、五才未満は
無料と定め、同年十月二十五日軍人にして制定の服着用の者に限
り、毎水曜日○大祭に當る日を除く正午より無料觀覽せしめ、二十二年三月より
これに土曜日をも加へ、而して二十五年三月三十一日より毎月曜
日を除き、其他は通じて開館のことに改め、二十七年九月十七日月
曜日をも加ふる事となり、三十七年より開館日を一月一日より十
二月二十七日迄とす。同年十一月二十六日、軍人○水曜日無料觀覽の件

を改定し、陸海軍人にありては制服着用、の者、諸學校生徒に於ては教師引率の者に限り、半額を以て觀覽せしむ。四十一年十一月三日より更に觀覽料を大人五錢、小兒貳錢、軍人及學校生徒教師引率者は金貳錢、十才未滿五才以上學校生徒は金壹錢とす。○本日より下足荷事と四十二年一月一日に至りまた軍人に限り、無料觀覽を許すこととなりぬ。開館の始めより四十二年末に至るまで觀覽せし人員は、實に四百二十一萬〇四百六十五人にして、内、外國人四萬二千百六十二人なり。三、四月の候最も多き日には五六千名に至り、冬期最も少なき時と雖も一日二三百名を下らず。皇族の台臨ありしは二十七年九月十六日明宮殿下台臨あらせられ、次で同年十月十三日常宮周宮兩殿下の御成あり。同兩殿下には四十年五月四日にも台臨

あり。四十三年一月八日には皇太子殿下行啓あり。この時寺内陸相山田陸軍省副官、賀茂宮司等に拜謁を賜ひ、尙思召を以て館員に金五千疋を下されたり。

外國貴顯の來觀ありしは、明治三十七年獨逸皇族フォン、ホーヘンツォルレルン殿下を始め數回あり。初め、本館の築造せらるゝや、當時未だ西洋式の建築物多からざりしかば、珍客の來れるなどの事あれば、其集會等に使用せしこゝ一再ならざりき。明治十七年四月八日の如きは、故陸軍大將有栖川宮の御主催にて本館に於て、蘭國、伊國、米國の各公使、其他の爲に晚餐會を開かれし等のことさへ有りき。

職員は、明治十四年五月、一等看守一員、二等看守三員を置きたりし。

が十七年九月に至り館長及び書記を置き同年十二月館の概則を定め十九年二月館長を止め取締を置き二十三年十月概則を改正し更に取締一員書記一員看守若干員を置き同三十九年七月書記を二員に改め四十二年を以て館の内外整頓するに至るや翌四十二年四月一日勅令を以て館則を省令を以て寄附寄託取扱規則を發布せられ館長一名書記二名を置き同月二日を以て處務規程を定めらる。これ本館經歷の大略なり。

〔明治十一年二月二十日岩倉華族會館長ヨリ山縣陸軍卿ヘノ回答〕 去年西南征討ノ際同族ノ面々ヨリ軍人負傷者ヘ綿撤糸並需用品料金三萬餘圓差シ出候處追々病氣費等ニ御支拂ノ處尙若干殘餘有就テハ今般招魂社境内ヘ繪馬堂御建設ニ付右殘金費用中ニ被差加候半者成功ニ可至御見込御照會之趣致承知候同族一同及示談候處勿論異存無之誠ニ永世不朽ニ係ル事項ニ候得ハ孰レモ本懐ノ至ニ存候條可然御取計有之度此段及御回答候也

追テ今般同族申合乍聊贖金凡三千圓斗リヲ以テ戰死者ノ爲メ招魂社境内ヘ石或ハ銅鐵ノ内ヲ以テ燈籠建築致度見込ニ候乍序此段モ申入置候其内同族之者罷出可及御相談候以上

〔十一年一月六日招魂社境内掲額並ニ武器陳列場建設相成度儀ニ付小澤陸軍少將ヨリ西郷陸軍卿ヘ伺〕 招魂社境内別紙圖面中朱書個所ヘ掲額並ニ古來ノ武器陳列場一宇新規御建設相成度尤入費ノ儀ハ一昨年華族會館ヨリ獻納之金額ヲ以テ仕拂候様致度此段相伺候也

〔明治十二年十二月十日工兵第一方面提理ヨリ西郷陸軍卿ヘ伺〕 靖國神社附屬額堂増築ノ義伺 一金貳千圓也 右ハ靖國神社境内ニ新築相成候額堂之結構ハ初メ工部省御雇教師カヘレチ一氏ニ協議仕様及繪圖面請求候處十分ノ粧飾ニテ費用モ許多ニ相及候間當署ニ於テ粧飾ヲ廢止シ築造候見込ニテ伺出御許可之上著手候處該堂ハ随分堅牢ニテ粧飾モ參ヘ有之然ルニ左右後面ノ飾リヲ廢シ候テハ全備ナラサルモノニテ建築ノ適當ヲ得ス遺憾之至リニテ教師モ甚得意ニモ有之且該地ノ如キハ參拜人モ多キ場所ニテ些少ノ工作ヲ除キ觀人ニ不備ノ心ヲ起サレケルモ亦遺憾ニ付左右後面共別紙圖面之通増築致度依而費用取調候處前書之通ニ相成候御許可之上ハ費用別途御下附相成候様致度別紙仕法計費圖ノ三葉相

添此段相伺候也 遂而教師カヘレチ一氏ニモ協議致置候間爲念此旨申添候也
 明治十三年一月五日指令 伺之通

〔十三年十二月總務局伺〕 昨十二年一月中伺濟ノ上目今建築相成居候靖國神社境
 内遊就館ノ儀追々工業相抄不遠落成可相成ニ就テハ別紙方法書並略圖間割ノ通
 ヲ以テ當局軍法課ニ於テ漸次陳列整頓ノ事擔任爲致度尤右著手ニ付テハ夫々粗
 其道相心得候者ヲ以テ從事セシメヌテハ自然御用辨ニモ不相成候間陸軍部内ニ
 奉仕スル者ノ中ニテ三四名ヲ選ミ軍法課御用掛兼勤ノ上從事爲致度此段下略圖
 略之

別紙

一類

右、在來ノ中掲クルニ定ル者ハ之ヲ用ヒ猶漸次購求ノ事

一書籍

右、古來ノ兵書圖書其他漸次購求ノ事

一武器

右、砲兵工廠ニ有之舊諸藩ノ遺納品分捕品等ノ中同廠不用之分ヲ受ケ猶漸次
 購求ノ事

指令十二月十四日 伺之通

〔明治四十年二月二十六日遊就館増修築委員任命〕 委員長陸軍少將本郷房太郎

委員陸軍一等主計正杉村時中 陸軍技師福田東吾 陸軍工兵中佐平瀬大平 宮

司賀茂水穂 陸軍一等主計大津留重 海軍大主計永安晋次郎

〔明治四十一年八月二十五日遊就館整理委員任命〕 陸軍々醫總監森林太郎 海軍

大佐村上格一 陸軍歩兵大佐立花小一郎 陸軍省參事官吉村八十三 陸軍一等

主計大津留重 靖國神社附屬遊就館取締今村長賀 陸軍大臣官房囑託關係之助

〔職員履歷〕 館長今村長賀 明治十七年九月遊就館長ヲ命セラレ、十九年二月更ニ遊

瀨名義利 館長 仰付ヲル

〔明治十五年二月ヨリ同四十三年十二月ニ至ル遊就館觀覽人員並觀覽料調査表〕

年 度	大 人	小 人	外 國 人	無 料 人	合 人 員	合 金 員
十五年 度	一七、三〇一	〇	〇	一八、八一七	三六、一一八	五一九、〇三〇
十六年 度	二七、四一六	〇	〇	二七、四一六	五四、八三二	八二二、四八〇
十七年 度	二八、〇〇五	〇	〇	二八、〇〇五	五六、〇一〇	八四〇、一五〇
十八年 度	二九、三二二	〇	〇	一、五四三	三〇、七六四	八七六、六三〇
十九年 度	三三、〇六三	二、三三〇	〇	一、三二八	三五、六九一	九六四、二〇〇

二十年度	三五,三九七	三,六四四	〇	六九五	三九,七三六	一,〇九八,三五〇
二十一年度	三七,六八七	四,二二一	〇	六〇四	四二,五二二	一,一七二,八二〇
二十二年度	四〇,五一四	四,六三二	〇	五九四	四五,七四〇	一,二六一,七四〇
二十三年度	三六,七二一	三,四五四	〇	三三八	四〇,五〇三	一,一三六,一七〇
二十四年度	二九,六七〇	四,六三四	〇	四四四	三四,七四八	九三六,四四〇
二十五年年度	三五,一八四	五,三七二	〇	六七二	四一,二二八	一,一〇九,二四〇
二十六年年度	三四,六一一	五,〇六四	〇	七二三	四〇,三八八	一,〇八八,九七〇
二十七年年度	二二,一九九	二〇,五七六	〇	一一,一一一	二五二,八八六	七,一四一,七三〇
二十八年年度	一八八,四九七	一一,〇五五	〇	八四一	二〇一,三九三	五,七七五,四六〇
二十九年年度	一四六,四三二	一〇,七〇五	〇	七七〇	一五七,九〇七	四,五〇〇,〇一〇
三十年度	一一三,一七五	八,三四九	〇	七四一	一三二,二六五	三,七七八,七四〇
三十一年度	一〇七,三〇四	八,二二二	〇	八九五	一一六,四三〇	三,三〇一,三三〇
三十二年度	一〇五,二七九	八,三八一	〇	六二八	一一四,二八八	三,二四二,一八〇
三十三年度	一一九,六九九	一一,四三九	〇	七二四	一三一,八六二	三,七〇五,三六〇
三十四年度	一三九,九三七	一五,一一八	〇	六,一一三	一六一,七二九	四,三六五,九五〇
三十五年年度	一二九,二二七	一四,八八八	六五四	一四,三二二	一五九,〇七一	四,〇四五,〇一〇
三十六年度	一三四,八四〇	一八,〇七九	八二二	四,七八五	一五八,五二五	四,二五〇,六二〇
三十七年度	三三六,九七一	四三,一一二	六,五五〇	七,四二二	三九四,〇六四	一〇,五七七,七〇〇
三十八年度	三九三,六〇九	四〇,四三六	四,七一九	二二,八三六	四六一,六〇〇	一一,八一三,四二〇
三十九年度	三六〇,九一三	二七,〇三三	八,三六七	一七,三六七	四一三,六七〇	一〇,九〇三,〇三五

四十年度	二五九,一六一	一四,五五五	六,〇七一	一〇,七九七	二九〇,五八四	七,七七三,八七〇
四十一年度	二〇九,六八二	一六,三三九	五,四一	三,六〇六	二三四,七六八	六,二七三,二四〇
四十二年度	一八七,二四五	一六,七〇一	五,六七二	九,二六七	二二八,八八五	九,一九九,三七五
四十三年度	一一九,六四六	一四,二七八	三,六一五	二〇,一六〇	一六七,六九九	六,六四〇,一八五
計	三,六八六,五九六	三三三,六〇六	四二,一六二	一四八,一〇二	四,二〇,四六五	一一九,一一三,四三五

圖書館

圖書館は、祭神の遺蹟を永久に保存し、その勳功を發揚せんとして、
 林伯爵友重、大隈信重、土方元久、兩伯爵、蜂須賀侯爵茂、黑田子爵清綱等發起して明
 治三十五年六月十八日、建設奉納の件を願出で四十一年十一月二
 十日該建設に著手し、四十二年十二月九日、王政復古の記念日を
 以て工事落成奉納申告祭を行ふ。發起者は、同年十二月二十七日御思召其
 建坪百四十坪、遊就館の建築に准じ煉瓦總二階なり。四十三年五月

二十三日館内備品圖書等をも獻納し、全く本社の有となれり。

〔帝國神社奉納圖書館會計報告書抜萃〕第一建築費之部 一金貳萬貳千貳百六拾六圓六拾錢建築費總金高、第二備品費之部 一金九百參拾五圓貳拾錢 室内備品費總金高 第三諸經費之部 一金六千八百拾九圓拾九錢 七ヶ年間ノ諸經費總金高〔圖書物品目錄類別統計〕第一明治維新後之部 圖書總計六千貳百〇七點 第二明治二十七八年戰役之部 同總計貳千八百八拾點 第三明治三十七八年戰役之部 同總計壹百五拾貳點 第四木版之部 版木總計貳百六拾六點 第五紙型之部 紙型總計千貳百貳拾五點 總計壹萬〇七百參拾點

〔寄附人名錄抜抄〕 金貳萬五千九百九拾參圓六拾貳錢壹厘 總計寄附額

雜載

左に列擧するは、強ひて之を項目に分載するも、却て錯雜紛糾を來すの虞あるを以て、別に本項を設けて細大洩らさざらんことを期

せり。

金燈籠壹對。本殿内にあり、明治七年三月幡鎌幸雄の奉納なり。

金燈籠壹對。本殿内に在り、明治七年五月十五日從四位四ッ辻藤

原公業の奉納なり。

金燈籠壹對。本殿内にあり、明治二十八年十二月麴町區飯田町二

丁目有志の奉納なり。

陶器製燈籠壹對。拜殿前に在り、明治三十八年六月侯爵細川護成の母堂宏子の奉納なり。

青銅天水桶。本殿前の左右に在り、明治二十九年三月二日林榮一

郎外九十名より奉納なり。

青銅天水桶。拜殿の左右にあり。

花崗石燈籠壹基。神門外に在り、明治四年五月山口藩士徵兵士官中の奉納なり。

花崗石燈籠壹對。神門外に在り、明治四年十一月從四位榊原政敬の奉納なり。

石燈籠壹對。神門外に在り、明治六年九月陸軍中佐小澤武雄外九名の奉納なり。

寒水石燈籠臺附壹對。神門外に在り、明治十一年一月舊第一旅團會計部の奉納なり。

石燈籠壹基。神門外に在り、明治十一年第九聯隊下士卒の奉納なり。

金燈籠壹對。大鳥居前左右に在り、明治十三年五月警視局の奉納

なり。

花崗石燈籠壹對。舊馬場入口に在り、明治三十八年四月華族會館の奉納なり。高さ一丈六尺。

石燈籠。舊馬場に在り、總數六十基なり、明治十二年二月二十八日西南役死歿者の爲め、華族會館副長鍋島直大より華族一同を代表しての奉納なり。

花崗石大燈籠壹對。舊馬場の入口に在り、明治十三年四月十五日別働第二旅團の奉納なり。銘に「是燈爲明治十年西南役戰歿者建焉蓋資金當時別働第二旅團所獲于敵也」とあり。

高燈籠。燈明臺とも云、今偕行社の内に在り、明治三四年の交之を建つ。當時品川灣より望んで目標となせしと云ふ。

獅子据石壹對。明治二十七、八年役の戦利品なり。直隸保安府深川州城東北得朝村季永成敬獻獅子一對、大清光緒二年閏六月初六日敬立とあり。

皇族下乗札。中門の左傍に在り、明治十三年三月二十八日之を創建す。

祭日高札。明治二年七月二十八日當社入口三ヶ所に建てたりしが現今は正面左傍一ヶ所にして明治十二年の建替なり。

制札。鳥居前其他數ヶ所に在り、明治十一年十月十日建設其禁制の一ヶ條に車馬を許さざることあり。然れども大祭の節に於て、軍隊々伍を組み、參拜する時は此限に非らざる旨達あり。

（明治十一年五月八日達）招魂社門扉夜中閉扉且境内車馬止制札立設致度段工兵

第一方面ヨリ申出ニ付開届相成門扉ハ日出ニ開キ日没ニ閉チ車馬止ノ制札ハ適宜ノ場ヘ立設候様指令相成候事

水盥。長九尺一寸高二尺横三尺、明治二年六月津藩の奉納なり。

境内全圖揭示場。遊就館の左側に在り、明治四十年二月玉塚榮次郎の寄附なり。

社號石壹基。舊馬場の入口にあり、高さ貳丈七尺貳寸、明治二十七年九月二十五日建設成、工費六百八拾五圓、文字は吉田晚稼の揮毫なり。

兵部大輔贈從三位大村永敏銅像。正二位伯爵山田顯義、從三位原田一道外五名造立委員となり、明治十五年十一月主唱し、大熊氏廣計畫し、小石川砲兵工廠にて鑄造し、二十五年十月竣工、二十六年二月五日除幕式を舉げ、四十二年七月當神社に奉納せり。工費は宮内

省御下賜金及有志者寄附金を合せ壹萬餘圓なりきと云ふ。其銘は
三條太政大臣の撰なり。

川上大將銅像。明治三十九年五月成る。同六月五日引繼を受け翌
六日の通達により維持資金として金千百圓を受領し、其利子を以
て掃除の費に宛つ。

近衛紀念碑。西南役近衛諸兵の戦歿せる者の爲めに建設せしも
のにして、明治十二年十二月二十二日の獻納にかゝる。陸軍大將有
栖川職仁親王の篆額なり。

士官學校生徒の碑。牛が淵附屬地に在り、明治十四年九月建つ。篆
額上に同し。

谷村計介碑。牛が淵附屬地に在り、明治十六年三月太政大臣の許

可を得て之を建つ。同年十二月陸軍中將谷干城の獻納に係る。宮内
省より建設費の中へ金五拾圓の御下賜あり。篆額上に同じ。

表忠碑。牛が淵附屬地に在り、明治十一年九月建つ。十年戦死者の
表忠碑にして東京區戸長の發起建設なり。

給水槽。牛が淵附屬地に在り、明治三十九年四月建設す。東清鐵道
沙河驛の給水槽を三十七、八年役の沙河大戦に利用して、奇功を奏
せしを記念として、此處に移轉保存せしものなり。

四阿舎八棟。神苑内に散在す。○大華表北側壹棟建坪六坪二合五勺、拜殿南方
筋塀脇壹棟四坪、本殿後玉垣外西壹棟四坪、後庭
池の南壹棟四坪、後庭東南小丘上壹棟二坪二合五勺、後庭東方四
坪、洗心亭庭二坪二合五勺、外に遊就館庭内壹棟二坪二合五勺

苑内燈籠拾基。所々に散在せり、内雪見形七基あり。○内雪見燈籠一基
僧行社庭園にあり
筋塀。延長百貳拾間境域東南面に圍らす、南面は三十九年東京市

街鐵道會社の寄附に成り、東面は四十年九月神社の經營にて其費壹萬三百餘圓なり。

煉瓦塀。境域の西北面に圍らす、明治四十年七月成る。延長二百六十五間三尺、附屬門三ヶ所、其費九千七百拾六圓六拾九錢。

連鎖柵。舊馬場の四周及牛ヶ淵東側等に在り、明治四十年十二月成る。○牛ヶ淵に於ける工費六千六百四拾七圓九拾錢なり。

遊就館事務所壹棟。建坪二坪湯呑所壹棟。建坪六坪札賣所。七尺七寸八角建諸物預所壹棟。三十七坪五合

境内馬繫場壹ヶ所。長さ拾貳間。憲兵派出所壹棟。社務所門前左方に在り。○建坪二坪二合五勺元神社南門に

ありしを、明治三十年今の處に移し、憲兵派出所せしが、三十六年十月

二十四日以來巡查二名出張する事となり、更に四十年六月二十一日より、又憲兵の派出する所となる。

新聞縱覽所壹棟。相撲場に接し、泉水池に瀕す。○建坪四坪八勺洗心亭と稱するもの是なり。明治四十年八月十日開始す。吉野小三郎の奉納なり。

宮司官舎壹棟。初めは工兵第一方面出張所なりしが、明治二十年六月九日宮司の舎宅とせられ、同月十五日受領三十年増築す。○建坪六十一坪五合神苑の後部西南角にあり。

第一土藏。社務所の西北にあり、舊建物なり。○建坪十八坪

第二土藏。本殿の南にあり、舊建物なり。○建坪十二坪物置二棟。社務所の北に在り、其一は建坪十坪五合、其一は十二坪

五合。

供待所三棟。社務所供待所は三坪七合五勺。能樂堂供待所は六坪。遊就館供待所は六坪なり。

厠舎。社番所厠一棟。○建坪三坪。社務所厠一棟。○建坪一坪。遊就館厠四棟。○二十二坪三合九勺

苑内公衆厠三棟。○十五坪二合五勺。相撲場厠二棟。舊馬場二棟。宮司官舎一棟。能樂堂一棟等なり。

境内草取掃除。明治七年二月以來、徒刑の者を以て之に充てられしが、後之を廢し備人に代ふ。

〔明治七年二月十八日第五局へ達〕 招魂社境内草取掃除ノ儀自今徒刑ノ者ヲ以テ相充可申此旨相達候事

〔明治七年十月十三日第一經營部達〕 招魂社境内草取掃除之儀是迄徒刑人ヲ以テ使役爲致候處追々刑員減少難行屆候ニ付自今其部ニ於テ可取計候此旨相達候事

境内電氣燈。明治二十一年五月より點じ四個所に設け、同六月八個となし、二十五年十月競馬場内に二基を建つ。三十九年七月更に其數を加ふ。

瓦斯燈。明治三十九年七月より點燈す。

電話。明治三十七年一月架設。

賞與。明治四十年一月中村米吉金壹百圓を寄附す。仍て木杯一組を賞與す。同八月吉野小三郎新聞縦覽所一棟寄附につき三ツ組銀杯を、四十三年六月鳥取縣人笈雄平金壹百圓寄附につき木杯一組を賞與す。

境内茶店。明治十三年七月十六日之を許す。三十九年五月舊馬場に露店を建てしも後之を廢す。

禮砲。明治二年六月軍務官の布告に基き、祭事順序の劈頭、大祭の初日に祝砲を發する事を達せらる。爾後續きて大祭毎に行はれしかども、中止せられしは何年なりしか記録に見えず。編者云、明治二年十に鹿兒島藩知事馬上にて一大隊を引率し、大砲五門を以て發砲せしこと見ゆ、而れども是は奉納なりしなるべし。

〔明治二年六月軍務官ヨリ諸藩へ布告〕來ル二十九日ヨリ五日ノ間於九段坂上招魂場昨年來戰死候者右祭典被爲行候仍相達候事 但シ招魂祠へ供物等奉納致度者ハ御許容相成候間來ル二十七日迄ニ當官へ可申出候事 一、祭事順序初日祝砲勅使御差立相成候事 一、第二日第三日第四日ノ間角力奉納候事 但シ雨天ノ節日送リノ事 一、第五日晝夜花火奉納ノ事

〔明治二年十二月二十七日彈正臺へ往翰〕來ル午正月三日招魂社大祭ニ付勅使參向祭式並發砲ヲ亭シ且又四日五日於社前相撲興行致度候間此段爲御心得申入候也

〔明治三年正月元日達〕正月三日招魂社大祭ニ付捕亡方差出之儀東京府へ掛合發砲及相撲興行ニ付爲心得彈正臺へ通報相成候事

〔明治三年正月元日達〕正月三日招魂社大祭ニ付キ第三第四大隊遊軍隊等へ發砲執行可致旨達相成候事

〔明治四年五月十二日兵部省ヨリ第二聯隊へ達〕來ル十五日招魂社大祭日ニ付本日第八時於社前小銃發可致候事

〔明治四年五月十三日兵部省ヨリ龍驤、日進、富士、乾行ノ四艦へ達〕來十五日招魂社大祭ニツキ例年ノ通祭砲執行可致且砲數十九發ニ候條此旨相達候

〔明治四年九月五日〕招魂社祭砲式獻納ノ兵隊へハ一人ニ付神酒一合、鯛一枚宛之割ヲ以テ其屯營ニ差贈候事 同祭祀之節兼テ出張ノ官員へ神酒並辨當等被下來候處自今被差留候事 但從僕之分ハ糧食被下候事

〔明治五年五月十二日兵務省達〕來ル十五日招魂社大祭ニ付於社前本日第六時ヨリ別紙ノ通銃砲發可致候事 別紙御親兵一番 二番 三番 四番 五番大隊 一番 二番 三番 四番砲隊 徵兵山口藩

事 歷 年 表

文久二年十二月二十四日、志士相會シテ洛陽靈山ニ殉難死節ノ靈ヲ私祭ス。同三年七月二十五日、津和野藩士等京都祇園祠城内ニ小祠ヲ建テ同ジク私祭ヲ行フ。元治元年十二月、周防國吉敷郡下宇野令ニ招魂社ヲ建立ス、爾後慶應元、二、三年明治元、二、三年ノ間ニ各地ニ招魂社ヲ建設スルコト百零五社ナリ。明治元年四月二十八日、東海道總督府ヨリ令旨ニヨリテ江戸城ニ於テ招魂祭ヲ行フ旨達セラル。同年五月十日、京都東山ニテ癸丑以來ノ殉難者ヲ祭祀スル旨仰出サル。同年五月二十四日、差向當正月以來朝命ヲ奉ジテ戦死セシ輩ノ祭祀ヲ行フ旨達セラル。同年六月一日、大總督府ヨリ兩野總房武與數個所ニテ戦死セシ者ノ靈ヲ明日江戸城大廣間ニ於テ祭祀スル旨達セラル。同二日、江戸城大廣間ニ於テ招魂祭ヲ執行ス、祭主有栖川熾仁親王、祭文奉宜大久保春野。七月七日、當春以來戦死ノ輩來ル十日、十一日、兩日京都河東操練場ニ於テ祭典スル旨仰出サル。同月十日、十一日、之ヲ行フ（以上ハ本社建設ノ原因トモ云フベケレバコトニ掲グ）

明治二年六月十二日、神社造營場所見分ノ爲メ九段坂上三番町元歩兵屯所跡へ軍務官副知官事大村益二郎以下五名出張ス。同十三日、軍務官ヨリ社殿建立ノ位置ヲ定

メラル 十九日、大村副知官事出張工事ヲ始ム 二十二日、二十八日ヨリ七月二日迄
 招魂祭執行ニツキテ軍務官ヨリノ伺ニ對シ行政官ヨリ、一、初日祝砲勅使御差立、二、
 日、三日、四日角力奉納、五、五日晝夜花火トノ指令アリ 二十三日、軍務官ヨリ東京滞在
 ノ諸藩へ來ル二十九日ヨリ五日間祭典執行ノ旨達セラレ猶供物奉納許容相成ベシ
 トノ布告アリ 二十四日、二十八日ヨリ招魂祭執行スベキ筈ノ處同日神祇官へ行幸
 遊バサル、ニヨリ二十九日ヨリ執行ノ旨達セラレ 二十八日兼テ造營中ノ假神殿
 成ルヲ以テ清祓ヲ修シ夜丑剋ニ靈招式ヲ行フ 二十九日、大祭、勅使彈正大弼五辻安
 仲參向勅幣ヲ捧グテ拜請シ次デ軍務知官事嘉彰親王祭主トナリ給ヒテ祝詞ヲ申シ
 給フ本日各兵隊參列ス 三十日ヨリ七月三日ニ至ルマデ祝部等神饌ヲ供シテ祭典
 ヲ舉グ此間角力花火等ノ餘興アリ、此月津藩石水盤ヲ奉獻ス
 七月一日 大砲隊以下へ神酒ヲ賜フ此日三條太政大臣參拜祝詞ヲ申サル 六日、戰
 死者ヲ出セシ各藩島津宰相以下九十三名へ神酒ヲ頒ツ 十日、大祭奏樂ニ就キ東儀
 從四位以下六名へ金三百疋宛下サル 十二日、大祭々務助手大久保縫之介以下十一
 名及佐藤嘉七郎以下九名へ夫々金圓ヲ下サル 同日兵部省ヨリ辨官へ大祭日ヲ正
 月三日、五月十五日、九月二十二日トシ月毎ノ當該日ヲ月並祭トスルノ指令アリ 二
 十八日、神社三方ノ門ニ祭日勅裁ノ高札ヲ揭示ス

八月二日 栗原筑前ヨリ神劍鍛冶獻納ヲ願出開屆ラル 同日、御鞘師源八へモ御鞘
 獻納ノ義開屆ラル 三日、栗原筑前及御鞘師源八へ兵部省ヨリ褒賞アリ 二十二日、
 太政官ヨリ爲祭祀永世高壹萬石宛行ハル、旨仰出サル
 九月二十日 例祭ニ付清祓執行ス以テ一日ニ上ケラレシナルベシ 二十一日、例大
 祭勅使從三位高辻修長參向セラレ勅幣ヲ奉リ宣命ヲ宣リ兵部卿嘉彰親王祭主トナ
 リテ祭典ヲ舉グ給フ 二十三日、辨官ヨリ大祭日九月二十二日ハ御誕辰日ナルヲ以
 テ九月二十三日ニ改メ仰出サレシ旨通達アリ
 十月十九日 當直ノ社司日記ヲ記シ始ム爾來絶ユルコトナシ 本月、辨官ヨリ兵部
 省へ年中三祭日 九月三日、五月十五日、ノ中正月三日ハ維新ノ基ヲ開キシ戰日ナルヲ
 以テ同日ヲ殊ニ大祭トシ勅使差遣奉幣アラセラルベキ旨指令アリ
 十一月二十三日 鹿兒島藩知事一大隊ヲ率キテ參拜大砲五門ヲ据エ小銃ト交ヘテ
 發砲敬意ヲ表シ志氣ヲ鼓舞ス此日六十二人ノ者へ社司ヲ命ゼラル
 十二月十一日 兼テ第二遊軍隊へ境内取締ヲ命ゼラレシガ本日之ヲ免ゼラル 十
 二日、社領高壹萬石ノ内大藏省ノ都合ニヨリ當分其半額返上ノ儀願出テ開屆ラル
 明治三年正月一日 始メテ新年祭ヲ行フ此日來三日ノ大祭ニツキ、奉迎役、清祓直會等
 ハ兵部權少錄以下へ申付ラル 二日、清祓ヲ修ス兵部大少丞以下皆列ス 三日、例大

一 坊 園 前 前 前
一 坊 園 前 前 前
祭、勅使平松時厚參向勅幣ヲ捧グ兵部卿嘉彰親王祭主トシテ式ヲ舉グ給フ 同日、鐵
兵一大隊第三、第四大隊遊軍隊參拜大小銃發砲敬意ヲ表ス、夜、神樂神事アリ 四日、直
會祭兵部丞錄參集之ヲ修ス

五月十四日 例大祭ニ付キ清祓ヲ行フコト例ノ如シ 十五日例大祭兵部卿有栖川
熾仁親王祭主トシテ祭典ヲ舉グ給フ、諸宮家諸公卿ヨリ奉納品夥シ 十六、十七、十八
日例祭日ニツキ祭主代祭典ヲ行ヒ烟火角力ノ興アリ 十九日、直會祭例ノ如シ有栖
川宮東伏見宮參拜セラル

六月一日 新正殿地鎮祭ヲ行フ現今ノ正殿ナリ

八月 此月社内ニ學校ヲ開ク

九月二十二日 例大祭ニ付キ清祓ヲ行フ 二十三日、例大祭兵部卿有栖川熾仁親王
祭主トシテ祭典ヲ舉グ給フ 二十四日、二十五日、祭典ヲ行フ 二十六日、直會祭例ノ
如シ

十一月五日 本社創立ニ功アリシ故大村兵部大輔ノ爲メニ特ニ社前ニ弔祭ヲ行フ
有栖川兵部卿宮ヲ始メ山田大丞船越權大丞平尾武庫正等拜禮アリ、此日、兼テ社番ハ
社司之ニ當リテ當番二人加番二人ナリシヲ六人宛ト定メラレ、即日實行ス、此年十一
月、一番町、二番町、三番町、四番町ニ存在スル土地邸宅ヲ廣澤參議以下へ賣却ス

明治四年一月二日 例大祭ニ付清祓ヲ行ヒ船越權大丞以下列ス 三日、例大祭、勅使宮
内大丞小川一敏勅幣ヲ捧グ兵部卿嘉彰親王祭主トナリ給フ 五月九日、諸官省彈正
臺並部内へ來ル十五日ノ例大祭競馬ノ優勝者ニ袂時計羅紗戎服等ヲ賞與スル旨廻
達アリ 十四日、例大祭ニ付キ清祓 十五日、例大祭、兵部卿有栖川熾仁親王祭主ト
ナリ給ヒ幣帛ヲ獻ゼラル、此日初メテ競馬ヲ行フ 十六日、十七日、十八日祭主代祭典
ヲ舉グ相撲花火ノ興アリ 十九日、直會祭如例
九月二十二日 例大祭ニ付清祓 二十三日、例大祭、兵部大輔山縣有朋祭主トシテ玉
串ヲ奉リ祝詞ヲ申ス社前ニ御親兵調練ヲ行フ 二十四日、直會祭 二十八日、戦死者
人名ハ是迄冊ニ認メタリシヲ卷物トセラル

十一月七日 新正殿立柱祭ヲ行フ 十七日、大會ニツキ祭典

明治五年一月一日 神事ヲ行フ公式ニ非ス仍テ祝部ノニ預之 二日、例大祭ニ付清祓 三日、例大祭、勅
使伏原宣足勅幣ヲ奉リ祭主兵部大輔山縣有朋祝詞ヲ申ス 四日、直會祭、兵部少丞小
澤武雄祭主タリ 七日、相撲アリ 二十四日、始メテ元始祭ヲ行フ 二十九日、鐵是九
十郎外二十四名社司ヲ免ゼラレ勤勞ニ依リ各金百兩ヲ賜フ

二月一日 穗積權雄以下五名へ社司ヲ命シ東流保太郎外二名へ守兵ヲ命セラル
五日、新正殿上棟式ヲ舉グ式畢テ餅錢幣ヲ投ス 二十七日、兵部省ヲ廢シ陸海軍兩省

ヲ置カル 此月假社務所ヲ建設ス
 三月十一日 始メテ神武天皇遙拜式ヲ行フ、二十三日、神祇官廢セラレ祭事祝典ハ式部寮ニ於テ行ハル、コト、ナル
 四月二十八日 兵部省ヨリ社地及建物ハ築造局ノ管轄祭典ハ秘史局所管ノ旨達セララル
 五月三日 太政官ヨリ來ル七日招魂社遷宮ニ付キ諸局寮司臺勅奏任官各一員爲總代夜十一時禮服用參集スベキ旨達セララル 六日、明日遷宮ニ付清祓ヲ行ヒ神寶調度ヲ清メ新殿祭ヲ舉グ祝部玉ヲ四角ニ懸ケ米酒麻ヲ散ス祭主陸軍大丞小澤武雄異ニ向テ微音ニ祝詞ヲ申ス此日靈璽ノ巻物完結ス 七日、正遷宮ヲ行フ兵隊渡御ノ道ヲ衛リ文武官扈從シ夜十二時庭燎ヲ滅ス祭主陸軍大輔山縣有朋覆面御與ヲ奉ズ其式甚嚴肅ヲ極ム 八日、饗宴祭ヲ行フ神饌五十膳ヲ獻ル祭主陸軍中佐小澤武雄、此時獻供所奏樂所亦成ル 十二日、五月十八日ノ例大祭ハ十五日ニ併セララル 十四日、例大祭ニ付清祓ヲ行フ本日從四位西四辻公業ヨリ燈籠壹對ヲ納ム東流鯉十郎ニ社掌ヲ命ズコレ本社ニ社掌ヲ置ク始メナリ 此後六月石井造酒之助ヲ社掌トシ爾來社掌ノ定員二名トナレリ 十五日、例大祭々主陸軍大輔山縣有朋 十六日、直會祭ヲ行フ兵隊參拜揚火アリ
 六月二十九日 大祓ヲ行フ 本年六月教部省制定ノ式ヨリテ始メテ之ヲ行フ

九月十五日 正院ヨリ侍從ヲ以テ勅使トセラレシガ自今式部寮官員ヲ以テスル旨達アリ 十七日、新嘗祭、及伊勢神宮遙拜式ヲ行フ 本月太政官達行ニ付 十八日、式部寮ヨリ祭式中祭主祝詞ノ次ギヘ勅使讀宣命文ノ七字ヲ加フ旨通知アリ 二十二日、天長節ニ付キ陸海軍兩省各員參拜始メテ祝祭ヲ行フ、神饌五十膳ヲ獻ル祭主ハ陸軍中佐小澤武雄明日例大祭ニ付清祓ヲ行フ 二十三日、例大祭、勅使戶田忠至、祭主陸軍大輔山縣有朋 按フニ本年ハ一月ハ一勅使參向アリ 二十四日、直會祭 二十五日、二十六日、二十七日、大祭餘興ノ競馬、相撲ヲ行フ
 十月二十日 露國某親王ノ爲ニ競馬ヲ行フ
 十一月九日 改曆ノ詔ヲ發セラレ十二月三日ヲ以テ六年一月一日トセララル 二十三日、布告ヲ以テ元始祭式孝明天皇遙拜式神武天皇御即位遙拜式ヲ定メラル 二十九日、社司掌ノ新年式ハ一月二日秘史局ニ於テ課長之ヲ受クベキ旨達セララル
 十二月一日 始メテ煤拂祭ヲ行フ 二日、年末大祓ヲ行フ 改曆ニヨリテ本日ハ本年ノ最終日ナリ
 明治六年一月一日 新年祭ヲ行フ 三日、元始祭、コレ正日ニ行フノ始ナリ 十七日、御内陣御造營ニ付脇間ヘ奉遷ス 二十三日、始メテ孝明天皇遙拜式ヲ行フ 二十五日、大祭日ノ大玉串ハ木綿ヲ用ヒ來リシヲ五色絹一匹宛ニ定メラル 二十七日、兵部省ヨリ築造局ヘ來三十一日、二月一日、同日ノ三日間取締トシテ十名宛出張スベク達

アリ 二十八日、鳥居竣工奉告祭ヲ行フ 二十九日、初メテ紀元節ノ祭典ヲ行フ 三十日、例大祭ニ付清祓ヲ行フ祭主海軍少將真木長義大祭ハ正月三日ナルヲ陸軍比擬シ何ヲ經テ本日ヨリ執行セシナリ 三十一日、例大祭、勅使掌典慈光寺有仲、祭主陸軍大輔山縣有朋、此日競馬執行 此月社務所及兩幄舎成ル

二月一日 直會祭、々主海軍大佐林清康、此日相撲興行 二日、相撲興行 十八日、新曆ニヨリテ正月三日、五月十五日、九月二十三日ノ例大祭ヲ一月三十一日、六月九日、十一月十二日ニ改メラレ、勅使ハ十一月ニ限り差遣セラル、事ト定メラル 二十七日、三十一日ニ相當スル月並祭ハ小ノ月ニハ三十日執行ノコト、定メラル

四月七日 神武天皇遙拜式ヲ行フ

六月八日 例大祭ニ付清祓、祭主陸軍中佐小澤武雄 九日、例大祭、々主陸軍卿代理少輔西郷從道、近衛隊以下參拜 十日、直會祭、々主陸軍少佐滋野清彦、本日相撲アリ 二十九日、出張少録青山清ヨリ、是迄例月小祭ニハ本職ヘ祭主代ヲ命セラレシガ今般第一局第四課祭典主任ト定マレルヲ以テ課長ノ出張アラム事ヲ申請ス、仍テ本月三十日ノ月並祭ヨリ陸軍省官員出張祭主ヲ奉仕コト、ナレリ 同日、同人ヨリ競馬場ヲ鶴岡八幡宮競馬場ノ如ク築堤セム事ヲ申出テ後閉届ラル 三十日、自今月並祭ニハ獻供十五膳ト定マリ本日第一局第四課長參向ス

七月四日 太政大臣ヨリ大祭打揚花火ハ廢止ノ旨達セラル但仕掛花火ハ

九月五日 太政官布達ニ基ツキ大祭ヲ一月二十七日十一月三十一日七月四日九月六日十一月六日十一月一日ニ推步改定ス 六日、本日月並祭當日ナルヲ以テ陸軍少佐葛岡信綱祭主トシテ月並祭ニ並セテ祭日改定奉告祭ヲ執行ス

十一月三日 天長節祭典執行本月太政官達ニヨリ本日ト確定ス爾來 五日、例大祭ニ付清祓、祭主海軍少將真木長義 六日、例大祭、勅使大掌典橋本實梁、祭主陸軍大輔西郷從道、此日競馬ヲ行フ 七日、直會祭ヲ行フ、祭主海軍大佐林清康 二十三日、新嘗祭ヲ行フ達ニヨル

本年、年中祭式一冊ヲ制定ス、日缺ク、按フニ九月十月ノ候ナラム、曆日確定シ其記スル所大祭三度、中祭小祭三十六度、遙拜四度、天長節奉祝祭一度ノ祭式神饌等ニテ、以來明治十二年マデ之ニ準據シ更ニ異同アルコトナシ、次ノ略ス但例祭典ノコトハ凡テ祭主ハ之ヲ載ス

明治七年一月二十七日 例大祭、々主陸軍卿山縣有朋、本日 天皇陛下行幸赤地錦青地錦各壹匹ヲ納メ給ヒ、玉座ニテ御拜アラセラレ、後、椅子ニヨリ給ヒテ陸海軍兵士等ノ參拜ノ狀ヲ天覽アラセラル 三十日、改定ニヨリ孝明天皇遙拜式ヲ舉グ 二月十八日、境内草取掃除ノ儀ハ自今徒刑ノ者ヲ以テ充テラル、旨達アリ

七月四日 例大祭、々主海軍少將中牟田倉之助
 八月十八日 陸軍卿ヨリ佐賀縣賊徒追討戦死者ヲ本月二十八日合祀招魂祭執行毎
 年一月二十七日祭典ノ旨達セラル 二十日陸軍卿ヨリ二十七日、二十八日招魂祭ニ
 勅奏任官参列スベキ旨達アリ 二十七日、夜十一時佐賀役ニ戦死セル百九十二人ノ
 靈ヲ招ギ合祀ス、祭主陸軍少將野津鎮雄 二十八日、臨時大祭、勅使大掌典橋本實梁、祭
 主野津鎮雄、祭典ノ前後日ニ清祓直會祭ヲ行ヒテ競馬、花火ヲ催スコト例大祭ノ如シ
 十一月二日 太政大臣ヨリ佐賀役ニ落命セル十六名合祀ノ旨達アリ 五日、招魂式
 ヲ行ヒ合祀ス、祭主陸軍大佐小澤武雄 六日例大祭、勅使大掌典四辻公賀、祭主陸軍卿
 山縣有朋
 本年御親筆御製ヲ賜ハリシヲ以テ之ヲ製額シ殿楯ニ掲グ按フニ二月九日達ニ御
 筆ニ依レバ一月行幸アラセラルベシ
 宸筆ヲ賜ヒ二月奉親セルモノナルベシ
 明治八年一月十二日 嘉永六年殉難死節ノ者、合祀ノ件ニ付正院ヨリ達アリ 二十五
 日、内務省ヨリ癸丑以來ノ志士東京招魂社へ合祀可相成ニ付精密穿鑿ヲ遂グ申出ツ
 ベキ旨達セラル 二十六日、清祓、祭主海軍少將真木長義 二十七日、例大祭、祭主海軍
 中將川村純義、東伏見宮、伏見宮ヲ始メ太政大臣三條實美以下文武官参拜ス、餘典例ノ
 如シ 二十八日直會祭、々主海軍大佐林清康

二月八日 臺灣ノ役殉難者合祀ノ旨仰出ナル 二十一日、合祀執行ニ付先清祓ヲ行
 ヒ、夜十一時招魂ノ式ヲ舉グ、祭主陸軍少將谷干城、此夜風雪甚シク燈火ヲ點スルコト
 ヲ得ズ 二十二日、臨時大祭、勅使大掌典松尾相永、祭主陸軍中將西郷從道、此日 天皇
 陛下行幸アラセラレ金百圓ヲ賜フ、東伏見宮ヲ始メ文武百官悉ク参拜ス 二十三日
 直會祭
 五月十四日 大風殿舎ヲ破損シ、樹木ヲ倒ス 十五日、陸軍卿ヨリ招魂社出張所ノ儀
 除ク、地所建物ヲ工兵第一方面へ引渡スベク達アリ
 六月四日 去ル二月二十二日賜ハリシ金百圓ヲ以テ記念トシテ金燈籠ヲ作り神殿
 へ掲グ可キ旨達アリ 二十七日、佐賀戦死者合祀ノ旨達アリ
 七月三日 例大祭ニ付清祓佐賀役戦死者ノ招魂祭執行、祭主陸軍大佐小澤武雄 四
 日、例大祭、祭主並勅使陸軍大輔山縣有朋、此日三條太政大臣以下参拜アリ
 十月二十四日 大祭ニハ自今教導團樂隊ヲ以テ奏樂スベキ旨同團へ達セラル
 十一月五日 清祓、祭主海軍少將赤松則良 六日、例大祭、勅使大掌典橋本實梁、祭主海
 軍中將川村純義、三條太政大臣以下文官参拜ス、本祭典ヨリ陸海兩卿隔番ニ祭主ヲ務
 ムルコト、ナル 七日、直會祭、海軍大佐林清康
 十二月十二日 太政大臣ヨリ水夫松村千代松合祀ノ達アリ (六)

明治九年一月二十六日 大祭ニ付先清祓ヲ行ヒ、夜昨年九月朝鮮國ニテ戰死セル松村千代松ノ招魂式ヲ行フ、祭主海軍少將伊東祐磨勅使ヲ兼ネ祭文ヲ申ス 二十七日、例大祭、々主陸軍少將大山巖

三月十四日 烈風殿舎ヲ損シ樹木ヲ倒ス 十五日境内ニ在ル不用ノ井戸十個所ヲ埋ム

四月二十日 太政大臣ヨリ寄附米ノ儀當分減額ノ高ニ據リ本年七月以降金額ニ換ヘ年々金七千五百五拾圓下附シ以來寄附金ト稱スル旨達セラレ

七月三日 清祓祭主海軍少將中牟田倉之助 四日、例大祭、々主海軍中將川村純義 十月三十一日、例大祭々典時刻ヲ一月ハ午前九時七月ハ午前六時十一月ハ午前九時ト陸海軍兩省ニテ協定セラル

十一月六日 例大祭、勅使多田好問祭主海軍中將川村純義陸軍中將川村純義ニ付キ海軍ニテ奉仕 十二月二十七日 熊本賊徒暴動並山口縣萩、福岡縣秋月、嘯集ノ賊徒鎮壓ニ際シ國事ニ斃レシ人々合祀ノ件太政官ヨリ聞届ラル

明治十年一月十三日 熊本、山口、福岡縣賊徒追討ノ節戰死者、來二十五日合祀ノ旨達セラル 十五日、陸軍省ヨリ海軍省ヘ今回ハ二十四日招魂式、二十五日大祭執行シ爾後ハ毎年十一月六日ノ例大祭日ヲ以テ合祀スル旨通知アリ 十九日、大祭ニ付室内射

擊執行スヘキ旨砲兵本廠ヘ達アリ 二十四日、臨時祭ニ付清祓、此夜熊本、山口、福岡ノ役戰死セシ百三十三人ノ靈ヲ合祀ス、祭主陸軍大佐小澤武雄 二十五日、臨時祭、勅使大掌典橋本實梁祭主陸軍少將三浦梧樓、本日競馬、室内射擊等アリ、夜雪降ル 二十六日、午前ニ臨時祭ノ直會祭、午後ニ例大祭ノ清祓アリ 二十七日、例大祭、々主海軍少將中牟田倉之助引續キ相撲射的競馬等アリ此日各親王太政大臣以下獻供アリ 七月四日 例大祭、々主陸軍少將井田謙 八月二十日 社司詰所ノ修繕成ル 十月十一日 暴風本殿ノ葺ヲ剝グ 二十四日、本殿葺修繕奉告祭、々主陸軍大尉谷田義直

十一月五日 鹿兒島賊徒征討ニ於ケル戰死者合祀ノ爲メ來ル十三日ヨリ十五日迄三日間臨時祭典ヲ行ヒ、爾後毎年九月祭典執行ノ旨達アリ 六日、例大祭、勅使一等掌典丸岡莞爾、祭主海軍少將中牟田倉之助 十二日、臨時祭ニ付清祓、夜鹿兒島役戰死者六千四百七十八人ノ招魂式ヲ行ヒ合祀ス、祭主陸軍大佐小澤武雄 十三日、臨時大祭、勅使大掌典橋本實梁、祭主陸軍中將山縣有朋、此日始メテ能樂ヲ行フ 十四日、臨時大祭、々主陸軍大將有栖川熾仁親王、本日午前十時 天皇陛下行幸、親シク拜シ給ヒ金壹千圓ヲ賜フ、各皇族大臣參議文武百官皆參列ス 皇后陛下ニモ行啓遊サル、思召ナ

リシモ御風氣ニヨリ御見合セトナレリ 十五日臨時大祭、々主海軍中將川村純義十六日直會祭執行去ル十二日ヨリ本日ニ至ルマデ相撲、競馬、能樂、射擊、烟火等引續キ催サレ盛況ヲ極メタリ、相撲ハ大阪ノ力士ニテ其數百八十餘、此月、伺ノ上毎月二十四日ヲ月並小祭ト定メラル、本年末ヨリ新年松飾ヲ十二ヶ所ト定ム

明治十一年一月二十七日 例大祭、々主陸軍卿山縣有朋 二十九日太政大臣ヨリ九州地方ニ於ケル殉國者合祀祭ノ件達アリ

二月二十日 神社繪馬堂今ノ註建設ニ付華族會館長岩倉具視ヨリ陸軍卿山縣有朋へ金員寄附ノ件回答アリ

五月八日 本日ヨリ夜中ハ城内四方ノ門ヲ閉鎖シ並ニ制札ヲ建ツ

六月三日 飯田町一丁目七八九十番地民有地四千七百四坪ト官有地第一種招魂社附屬地トセラル 二十九日九年以來九州地方賊徒暴動ノ際賊及ニ斃レンシ地方官及征討中負傷ノ爲ニ死ニ至リシ人々ヲ來ル七月四日ニ合祀スベキ旨達アリ

七月三日 例大祭ニ付キ清祓夜西南役戦死者百六十人ノ靈ヲ招キ合祀ス、祭主陸軍大佐小澤武雄 四日大祭、海軍卿川村純義祭主トシテ祝詞ヲ讀ミマタ勅使トシテ祭文ヲ申ス

八月十六日 工兵第一方面ノ伺ニヨリ鳥居側へ巡查出張所ヲ設クル旨達アリ

九月二十一日 軍馬局ノ伺ニヨリ二十四日ヨリ二十六日迄執行ノ競馬ノ賞與金百圓下附ノ件開届ラル 二十三日本年六月ノ式部寮達ニヨリ始テ皇靈祭遙拜式ヲ行フ、祭主陸軍少佐谷田義直按フニ本年七月式部寮ノ通知ニヨリ行ヒシハ二十二年二月二十四日例大祭、々主陸軍少將野津鎮雄、有栖川宮、三條太政大臣等參拜アリ 二十九日本年八月二十三日近衛砲兵暴動鎮壓ノ爲メ殞命ノ者來六日合祀スベキ旨達セラル 十月十日 制札ノ建設成ル、其文ニ曰ク一、馬車ヲ乘入ルコト一、竹木ヲ折ニ十三日制札ノ趣ハ有レドモ大祭ノ節兵士ノ隊伍ヲ組ミ文武官ノ大禮服正服用參拜ノ時ハ此限ニ在ザル旨達アリ 二十六日神前ノ御鏡成ルヲ以テ清祓ヲ行ヒテ之ヲ据エ奉告祭ヲ行フ、祭主陸軍少佐葛岡信綱

十一月五日 例大祭ニ付清祓夜近衛兵暴動ノ節戦死者四名ノ靈ヲ招キ合祀ス、祭主陸軍大佐小澤武雄 六日例大祭、々主海軍卿川村純義、勅使四等掌典飯田年平、先合祀ノ祭文次ニ例祭ノ祭文ヲ奉讀アリ

此年繪馬殿ヲ建設ス

明治十二年一月六日 掲額並古來ノ武器陳列場建設セム事ヲ伺出ヅ、コレ遊就館ノ起源ナリ 十五日太政大臣ヨリ十年役ニ於ケル戦役巡查合祀ノ件達アリ 二十日舊米澤藩士二名合祀ノ件達セラル、按ズルニ六月二十四日合祀セラレタリ 二十七日例大祭、々主陸軍少

將小澤武雄

二月二十八日 華族中ヨリ石燈籠六拾基ヲ獻納アリ、之ヲ舊馬場ニ建ツ

四月二十九日 小兒車ニ限リ境内ニ牽入ル、事ヲ許ス

五月六日 遊就館起工

六月四日 太政官ヨリ靖國神社ト改稱別格官幣社ニ列セラル、旨達アリ、同日附ニテ自今内務陸軍海軍三省ニ於テ管理スベク祭典及施設等ハ陸海軍省之ニ臨ミ行ヒ神官ノ進退ハ内務省經理ハ陸軍省專當スベキ旨定メラル 十四日、今般官幣社ニ列セラレタルニ就テハ臨時祭典執行スベキ旨達アリ 十六日、宮司一員、禰宜一員、主典四員ニ定メラレ、本日青山清ヲ宮司トシ以下職員ノ任命アリ是ヨリ祭典ニハ神官從事シ從來ノ祭主ハ宮司專ラ之ニ當ル事トナレリ 二十四日、西南役負傷ノ爲メ病死者二百六十六名ヲ合祀スベキ旨達セラル、其夜招魂ス 二十五日、臨時大祭執行、勅使一等掌典丸岡莞爾改號、社格ノコトヲモ告ゲラル、其式大祭ニ同ジ、但陸軍省ヨリ式部大祭式ヲ定 此月、陸、海、内務三卿ヨリ太政大臣ニ具申シ神官増給ノ件ヲ定ム、宮司、禰宜、主典、禰宜、本俸、八圓増給、拾七圓、主典、本俸、六圓増給、六圓増給

七月一日 舊馬場地へ二百四拾一坪ヲ受領シ、四十二坪七合二勺ヲ道路トシテ返附ノ儀太政大臣ノ許可アリ 九日、神社永續準備金取扱方法ヲ定ム 二十一日、修繕金

積立方法ヲ定ム

八月一日 日供神饌獻備ヲ始ム 神酒洗 米生魚

十月二十八日 年中諸祭遙拜ノ神饌等ニ付キ認可ヲ受ク、是ニ至リテ年中行事ヲ改正ス

十一月一日 來六日例大祭ニツキ各官麻休暇スベク且午前九時武官ハ正服文官ハ大禮服ニテ參集スベキ旨達アリ、以後必此達本日ヨリ毎月一日ノ祭典ヲ始ム 六日、例大祭勅使參向アリ 本年ヨリ以下勅使ノ名ヲ略ス

十二月四日 皇族下乘札建設場所、内務卿ノ指令アリ 二十二日、近衛紀念碑獻納ノコトヲ許可ス 三十一日、始メテ除夜神事ヲ行フ

明治十三年二月十五日 各官社ニ準ジ本日ヨリ時々説教會ヲ催ス、二月二十四日、内務省ハ届出ニ及バザル旨通知アリ、始メテ新年祭ヲ行フ

三月二十八日 皇族下乘札建設

四月十五日 花岡石大燈籠二基、別働第二旅團ヨリ奉納、舊馬場入口ニ建設成ル 二十一日、宮司交替事務受渡ノ時ハ、内務、陸、海軍三省立會ノ上可行旨、内務卿ノ達アリ

五月六日 例大祭執行 十四日、近衛紀念祭執行、大祭ノ式ニ同ジ、勅使參向幣帛料ヲ納メラル、本日有栖川宮、東伏見宮、北白川宮參謀本部長、山縣有朋以下ノ參拜アリ 十

七日警視局臨時祭執行、勅使參向幣帛ヲ納メラル、内務卿以下參拜、煙火、相撲等ノ餘興アリ、此際金燈籠壹對ヲ警視局ヨリ奉獻ス。二十五日日本日ヨリ毎月二十五日ヲ說教日ト定ム。

七月十六日 境内及牛ヶ淵附屬地へ茶店ノ開設ヲ許ス。

十月三日 暴風雨建物樹木ヲ損ス、三部隊ニテハ屋舎倒レ兵士八名死ス之ヲ警視局人ノ葬儀ヲ 十二日、去三日ノ破損修繕ニ付奏告祭典ヲ行フ、其式月並祭ノ如シ。

十一月六日 例大祭執行勅使參向如例。七日、八日、餘興トシテ始メテ素人相撲ヲ行フ。

明治十四年一月三十日 第四旅團戦死者祭典執行、伏見宮參拜セラル。

二月十一日 始メテ紀元節祝祭ヲ行フ。同十五日、祭神記三十二卷合十ヲ内務省へ出ス。

四月三日 故兵部大輔大村益次郎ノ靈祭ヲ行フ。七日、砲兵第一方面へ大祭ノ節烟火執行ハ廢止スル旨達アリ。按フニ六年七月ニモ此例アリ仕掛花火ハ引續興行セシナルベシ

五月四日 掲額並武器陳列場竣工ス、名ケテ遊就館ト云フ。六日、例大祭執行、此日遊就館ノ構造ヲ縦覽セシム。十七日、今村長賀ヲ遊就館ノ主任トス。二十一日、遊就館ヲ引繼グ此日看守ヲ置ク。二十七日、舊高知藩殉難者八十名合祀仰出サル、按フニ六年

五月五日合祀 二十三日、遊就館陳列品整理ス。

十月二十八日 巡查ノ出張ヲ止メ憲兵ヲ守衛ニ宛テラル。

十一月六日 例大祭執行、勅使如例。二十九日、工兵第一方面本署へ本社境内其署出張所ハ本月限り廢止セラル、旨達アリ。

明治十五年一月二十四日 自今神職ノ教導職兼補ヲ廢セラル、於是說教開遊ヲ止メ陸海軍人ノ葬儀ニ關係セザル事トナレリ。

二月二十三日 遊就館觀覽規則ヲ定ム。

五月六日 例大祭執行。

十一月五日 本年七月初、鮮京城事變ノ節殉難セシ十二名ヲ明六日合祀スベキ旨達アリ、仍テ今夜招魂祭執行合祀ス。六日、例大祭執行、勅使如例、本日合祀祭ニ付公使花房義質始外務省官員モ參列ス。

明治十六年二月六日、飯田町ノ附屬地三百坪ヲ共立統計學校へ貸與ス。

五月五日、例大祭ニ付清祓、夜、舊高知藩殉難者八十名ノ招魂式ヲ行ヒ合祀ス。六日、例大祭合祀祭ニ付勅使參向アリ。

七月二十三日 有志會シテ始メテ朝鮮遺難者ノ爲ニ帛祭ヲ行フ。

十一月六日 例大祭勅使參向アリ、三十日、英國人、ジエーエツチブルークヨリセダル。

ス爾十本寄附出願ノ儀許可

明治十七年五月六日 例大祭

八月 大鳥居朽損ニ付取除ク是レ明治六年一月

九月九日 舊山口藩常備兵編成ノ際戦死者二十九名合祀ノ旨太政大臣ヨリ指令アリ

十月二十四日 西南役負傷ニヨリ死亡セシ十八名合祀スル旨太政大臣ヨリ指令アリ

リ 二十七日來五日午後六時招魂式ニ付勅奏判任官一名宛總代トシテ參拜ノ旨陸軍省ヨリ達アリ

十一月五日 舊山口藩士二十九名西南役負傷死者十八名ノ招魂式ヲ行ヒ合祀ス

六日例大祭並合祀祭執行勅使參向アリ 八日騎射及曲馬アリ

明治十八年四月二十二日 朝鮮事變殉難者合祀ノ旨太政大臣ヨリ達アリ

五月五日 十七年十二月朝鮮國京城事變ノ際戦死セシ六名ノ招魂式ヲ行ヒ合祀ス

六日例大祭合祀祭ニ付勅使參向アリ

十一月六日 例大祭執行勅使參向アリ

明治十九年一月九日 近衛記念十年祭執行 十八日陸軍卿ヨリ會計局ヘノ達ニ遊就館收入ノ儀ハ自今其局ニ於テ神社費ニ組込ミ管理スベシトアリ

二月十七日 事務取扱心得方ヲ定メラル 二十三日、今村長賀へ遊就館取締ヲ命ゼラル

四月 原田一道外六名ヨリ故大村兵部大輔銅像ヲ舊馬場中央ニ建設ノ儀願出願届ラル

五月六日 例大祭、此月遊就館第二回増築ニ著手ス、帝室御物ヲ本月ヨリ遊就館へ貸與アリ

七月十八日 大阪砲兵工廠ニ於テ青銅華表ノ鑄造ニ著手ス

八月二十九日 境内ニ落雷アリ

九月十五日 暴風雨倒木アリ

十一月六日 例大祭勅使參向アリ

明治二十年三月十七日 閣令ヲ以テ神官ヲ廢シ神職ヲ置カレ靖國神社神職ハ陸海軍兩省之ヲ補命スルコト、定マル 二十九日、官制改革ニツキ更ニ官司以下神職ノ補任アリ

四月二十七日 遊就館第二回増築落成

五月六日 例大祭明宮殿下御參拜競馬台覽アリ 八日、明宮殿下成ラセラレ相撲台覽アリ

六月八日 官制改正ニ付神社及遊就館ノ事務ハ自今總務局第一課主任ノ旨通達アリ
九日、宮司官舎落成十五日、移轉 十八日、明宮殿下御參拜、本殿、樂殿御通覽遊ハツ
ル
七月二十日 於大阪砲兵工廠青銅華表鑄造成ル
八月二十八日 大雷雨、境内へ落雷ス
九月二十三日 暹羅國王弟、テウツオンクモ殿下參拜アリ
十月十三日 華表品川沖ニ著ス、九月二十八日、攝州目標山ヲ發シ海路運送セシモノ
ナリ 二十日、臨時清祓、昨夜境内ニ變死者アリシガ爲ナリ
十一月六日 例大祭勅使參向如例、明宮殿下被爲成就馬御覽被遊
十二月二十八日 大華表建立成ル、之ガ鑄造費中へ御下賜金壹萬五千圓アリ 三十
一日、大華表建立奉告祭執行、式後投餅饅 此月青銅華表之記一卷成ル、社庫ニ藏ム
明治二十一年二月二十二日 富士見町一丁目三十九番地舊憲兵本部跡三百坪ヲ本社
附屬地へ編入ノ旨達アリ、後二十四年四月二十七日、經理部ヨリ編入取消ノ旨通知ア
リ
三月三日 祭神記二冊ヲ內務省へ提出ス
四月二十六日 西南役戰死者合祀ノ旨達アリ 二十七日、維新前殉難者合祀ノ旨達

アリ
五月一日 本日始メテ境内へ電燈四個ヲ點ズ 二日、維新前殉難者合祀ノ旨達アリ
五日、十年役戰死者一人、舊山口藩士六百一名、舊高知藩士五名ノ招魂式ヲ行ヒ合祀
ス 六日、例大祭、並合祀祭、勅使參向アリ
十月二十三日 維新殉難者合祀ノ達アリ
十一月五日 舊久留米藩士十八人ノ招魂式ヲ行ヒ合祀ス 六日、例大祭、並ニ合祀祭
勅使參向アリ、本日、明宮殿下參拜アリ
十二月 宮司官舎玄關ヲ増築ス
明治二十二年二月十一日 憲法並皇室典範御治定ニ付、勅使參向奉告アリ、仍テ臨時祭
執行
五月二日 維新前殉難セシ舊水戸藩士、舊宍戸藩士、舊松川藩士、千四百六十名ヲ來ル
五日、合祀スベキ旨達アリ 五日、招魂式ヲ行ヒ合祀ス 六日、例大祭、並臨時大祭執行
勅使參
向ナシ
十月二十六日 維新前殉難者合祀ノ旨達アリ 二十九日、維新前殉難者合祀ノ達アリ
十一月二日 維新前殉難者合祀ノ達アリ 五日、招魂式ヲ行ヒ合祀ス 六日、例大祭

明治二十三年二月二十二日 有志會シテ始テ熊本龍城記念祭ヲ行フ

四月二日 臨時清祓執行アリ昨夜境内ニ變死者

五月六日 例大祭 二十九日月並小祭ニ本省ヨリ官員出張參列セシガ當分參列セザル旨通知アリ爾來流例トナリテ今日ニ至ルマデ參列ナシ

十一月六日 例大祭勅使參向アリ 二十一日神職服務規定經理取扱手續ヲ定メラル

十二月十日 近衛經營部ヨリ地積建坪調査以下ノ引繼ヲ受ク 本月ヨリ神職自ラ會計事務ニ從事ス 本月ヨリ二十四年四月迄舊馬場ヲ近衛歩兵聯隊ニ貸與シ救練場ニ充ツ

明治二十四年二月四日 宮司從七位青山清卒ス 十七日後備海軍大主計正七位勳六等賀茂水穂宮司ニ補セラレ

五月六日 例大祭執行 二十一日主典四名ノ定員ヲ二名ニ減ス

九月十七日 維新前後殉難者千貳百七拾七人ノ合祀仰出タル旨達アリ 二十六日共立統計學校ヨリ地所ヲ返還ス

十一月五日 招魂合祀祭ヲ行フ 六日例大祭臨時祭勅使參向アリ後ニ去リ十月實災ニ罹リテ

並臨時大祭執行勅使參向アリ
明治二十三年二月二十二日 有志會シテ始テ熊本龍城記念祭ヲ行フ
四月二日 臨時清祓執行アリ昨夜境内ニ變死者
五月六日 例大祭 二十九日月並小祭ニ本省ヨリ官員出張參列セシガ當分參列セザル旨通知アリ爾來流例トナリテ今日ニ至ルマデ參列ナシ
十一月六日 例大祭勅使參向アリ 二十一日神職服務規定經理取扱手續ヲ定メラル
十二月十日 近衛經營部ヨリ地積建坪調査以下ノ引繼ヲ受ク 本月ヨリ神職自ラ會計事務ニ從事ス 本月ヨリ二十四年四月迄舊馬場ヲ近衛歩兵聯隊ニ貸與シ救練場ニ充ツ
明治二十四年二月四日 宮司從七位青山清卒ス 十七日後備海軍大主計正七位勳六等賀茂水穂宮司ニ補セラレ
五月六日 例大祭執行 二十一日主典四名ノ定員ヲ二名ニ減ス
九月十七日 維新前後殉難者千貳百七拾七人ノ合祀仰出タル旨達アリ 二十六日共立統計學校ヨリ地所ヲ返還ス
十一月五日 招魂合祀祭ヲ行フ 六日例大祭臨時祭勅使參向アリ後ニ去リ十月實災ニ罹リテ

校車縣へ本社奉納ノ鏡餅各五樽ヲ寄贈シ救練ニ資シメリ 二十四日境内遊就館前其他へ櫻貳百貳拾本植ニ拾本ヲ樹ク

明治二十五年四月一日 本日ヨリ六月盡日迄毎日遊就館ヲ開館ス

五月六日 例大祭

十一月六日 例大祭勅使參向アリ

十二月二十八日 境内舊馬場ノ兩側牛ケ淵附屬地へ吉野櫻三百本植五十本ヲ樹ク

本年境内瀧ノ池本殿前噴水池遊就館裡池牛ケ淵池ノ土浚ヲナス

明治二十六年二月五日 兼テ有志者等出願中ノ故大村兵部大輔銅像竣工シ落成式ヲ舉グタリ

四月七日 五月十一月兩度ノ例大祭ニ里神樂執行ノ件閉届ラル 本月遊就館入覽券從來木札ナリシヲ紙札ニ改ム

五月六日 例大祭

六月七日 宮司職印ヲ調製ス十九日有志會シテ甲子殉難者三十年祭ヲ行フ

十一月二日 維新前後殉難者八十名ヲ來ル五日招魂合祀スベキ旨達セラル 五日招魂式ヲ行ヒ合祀ス 六日例大祭並合祀祭執行勅使參向アリ

十二月七日 相撲場改築工事ヲ許可セラレ翌年四月マデニ竣成ス

明治二十七年一月三十一日 勅令第六號ヲ以テ神官神職ノ服制ヲ定メラル

三月九日 大婚滿貳十五年祝典ニ付神儀幣帛料ヲ納メラル、仍テ憲法發布式奉告ノ
祭典ニ準シ陸海軍兩省掛官出張參列祝祭執行

五月六日 例大祭從來大祭ノ節ハ勅使及文武官ハ立禮ニシテ神職ハ座禮ノ慣例ナ
リシヲ今回ヨリ立禮ノ事ニ改メラル

六月二十日 地大ニ震フ本殿石垣損シ石燈籠倒ル、遊就館ハ龜裂ヲ生ズ、二十三日電
燈點火セズ

八月一日 清國ニ對シ宣戰ノ詔ヲ發セラル

九月十日 朝鮮國成款ノ戰ニ於ケル分捕品ヲ遊就館ニ陳列シ十一日ヨリ一般公衆
ニ觀覽セシム 十三日、大本營ヲ廣島ヘ進メラル 十六日、皇太子殿下遊就館ニ行啓
アラセラル分捕品台覽アリ、宮司拜謁仰付ラル、社務所ヲ以テ御控所トス 十九日皇
軍全勝祈禱祭ヲ行ヒ、爾來開戰中毎月二十日ヲ以テ祈禱祭ヲ行フコト、ス其式小祭
ニ準ズ 二十五分社號石標成ル仍テ竣工奉告祭ヲ行フ 二十八日、豊島沖海戰分捕
品遊就館ヘ著ス

十月十三日 常宮、周宮、兩内親王殿下遊就館ニ成ラセラル

十一月二日 例大祭ノ撤供神儀ヲ兩省大臣掛官等ヘ分配スルコトヲ止ム 六日例

大祭勅使參向アリ一職役中ニ付餘興 二十一日、分捕品六百餘點遊就館ヘ著ス
十二月二日 遊就館修繕成ル

明治二十八年三月十六日 小使ノ名稱ヲ社丁ト改ム

四月一日 社務細則ヲ定メ本日ヨリ實施ス 二十八日、故大村兵部大輔祭典ヲ銅像
前ニ行フ、煙火ヲ舉グ

五月二日 天皇陛下大本營ヨリ還幸 六日、例大祭職役中餘興ヲ止ム、樂隊ハ海軍ヨリ出張ス
ベキ處大本營ヘ出張不在ニ付陸軍ヨリ參列セリ 本月ヨリ戰捷祈念祭ヲ止ム

七月二十八日 經理取扱手續中改正アリ

十月二日 臨時清祓ヲ行フ、昨夜牛ケ淵ニ變死者アリシ爲ナリ

十一月六日 例大祭勅使參向アリ昨日北白川宮薨去ニツキ餘興ヲ止ム、今回ノ例大
祭ヨリ太玉串五色ノ絹ヲ各二疋宛ニ改ム 十日、祈年、新嘗兩度ノ幣帛料ヲ紅白ノ絹
ニ替ヘ獻ルコトヲ認可アリ 十五日、陸軍戰利品整理委員長黒瀬義門ヨリ金銀十二
點ヲ遊就館ヘ送致アリ

十二月二日 二十七八年戰役戰死者合祀ニツキ來十五日招魂式、十六日ヨリ十八日
マテ臨時大祭執行スベク猶同日臨時招魂場ヲ設置スベキ旨達アリ 十五日、招魂式
ヲ行ヒ合祀ス本日ヨリ小祭以上ノ祭典ニハ社丁ニ水干ヲ著セシメ祭事ニ參與セシ

十六日臨時大祭執行勅使參向アリ 十七日臨時大祭本日 天皇陛下幸皇族親任官以下御先著樂堂前ニ神職ハ神饌所前ニ奉迎奉送ス宮司ハ石段ノ下ニ奉迎シ神殿ノ玉座ニ御先導シ奉ル此祭典ニツキ御幣物金貳千圓ヲ賜ヒ祭資トシテ國庫ヨリ金壹萬圓ヲ交附セラル祭典委員長長川上陸軍中將ナリ 十八日臨時大祭 皇后陛下行啓可被遊ノ處御風氣ニツキ御見合被遊今回ノ臨時祭ハ實ニ未曾有ノ盛典ナリキ 是迄一般公衆モ本殿階上ニ昇リ參拜セシメタリシガ今回幸アリシ以後遺族ノ外ハ昇殿セシメザルコトニ治定アリ

明治二十九年三月二日 林榮一郎外九十名ヨリ青銅製天水桶ヲ獻納ス

四月一日 日供料一日金貳拾錢ノ處參拾錢ニ改メラル 八日神職ノ忌服ハ一般ノ忌服令ニ據ルベキ旨本省ヨリ通知アリ 二十日陸軍戰利品整理委員長ヨリ三百十三廉ノ戰利品贈附アリ 二十七日臺灣及朝鮮國ニテ戰死及殉難者來五月五日招魂式六日合祀スベキ旨達アリ

五月五日 招魂式ヲ行ヒ合祀ス六日例大祭並合祀祭ヲ行フ此日 皇后陛下行啓參拜アラセラレ金貳百圓ヲ供ヘ賜フ

六月十日 社務所建築場地鎮祭ヲ行フ

八月三十日 暴風雨本殿ノ葺ヲ剝グ

十一月二日 二十七八年戰役臺灣及朝鮮國ニ於ケル戰死者來五日招魂式六日合祀祭行フベキ旨達セラル 五日招魂式ヲ行フ 六日例大祭並合祀祭勅使參向アリ 十二月二日 陸軍大臣官房軍吏ヨリ本社創立以來二十八年ニ至ル出納計算書一冊送附アリ 二十五日社務所成ル^{現今ノ} 二十八日社務所へ假移轉

明治三十年一月九日 社務所新築落成セルニヨリ副官出張祭典ヲ行ヒ移轉ノ式ヲ舉グ 十三日本日ヨリ十六日迄 皇太后陛下崩御ニツキ遊就館ヲ閉^{御發帳御理當日ヨリ} 休館ス

四月九日 本年兩度ノ大祭ノ儀ハ御喪中ニ付餘興一切ヲ止ムル旨通知アリ 五月六日 例大祭 三十一日遺族又ハ有志者ノ爲メ祭典ヲ行フ時ハ一遺族ハ昇殿ヲ許ス一有志者ハ其主催者若干名昇殿ヲ許シ他ハ階段ノ上横側ニテ拜禮セシム一、直會ヲ行フ時ハ宮司ノ指定ヲ受クルコト及内陣開扉ノコトヲ定ム

九月八日 大風雨本殿ノ葺ヲ剝ギ樹木四百餘本ヲ倒ス 二十四日神職ノ増俸ヲ止メ更ニ俸給トシテ支給セラル

十月 遊就館賞與規定ヲ定メラル 十一月六日 例大祭勅使參向アリ 此日從來ノ社丁二名社番一名ヲ廢シ更ニ社丁

五名ヲ置キ又社丁勤務規定及月給ヲ定ム

明治三十一年一月 新年ノ松飾ハ大喪中ニ付正門ノ外之ヲ止ム 十一日 英照皇太

后一周年祭ニ付遊就館ヲ閉ツ
 二月四日 經費取扱手續改正セラル
 三月二十一日 宮司ヨリ拜殿新築アラント陸海軍内務三省へ上申ス
 五月六日 例大祭
 六月 土藏ノ修繕ヲナス
 九月三日 臨時清祓ヲ行フ變死者アリシ爲ナリ 六日暴風雨樹木八十有餘株ヲ倒
 ス 三十日三十七八年戰役並臺灣朝鮮ニ於ケル戰病死者合祀ノ告示アリ
 十月六日 海兵合祀ノ告示アリ 二十七日維新殉難者合祀ノ爲メ來十一月四日招
 魂式五日臨時大祭ヲ執行スベキ旨達アリ 此月舊馬場ノ修繕ヲ行フ
 十一月三日 臨時大祭ニ付清祓執行 四日午前一時招魂式ヲ行フ儀仗兵三箇中隊
 參著警固ス午前九時勅使參向アリ 五日臨時大祭此日 天皇皇后陛下行幸行啓御
 拜アラセラル金貳千圓ヲ賜フ皇族親任官以下參著送迎シ奉ル 大祭費金壹萬五千
 圓國庫ヨリ支出セラル委員長ハ伊東海軍大將ナリ 六日例大祭執行勅使參向アリ
 本日常宮周宮兩殿下御參拜金千疋ヲ納メラル
 十二月七日 拜殿設計圖案調製ニツキ伊藤平左工門へ金五百圓ヲ賞與ス 十二日
 兵器本廠ヨリ銃身五千二百餘挺ノ寄附アリ 木月拜殿造營地ノ樹木百二十本植替

ス

供待所人足溜所ヲ改造ス

明治三十二年三月二十九日 長野縣高野町住人澤吉兵衛ヨリ落葉松三千本寄附之ヲ
 境内舊馬場ニ植ツ
 四月二十二日 二十七八年及臺灣韓國ニ於ケル戰役死役者五月五日招魂式翌六日
 例大祭並臨時祭執行スベキ旨陸軍大臣告示アリ 二十八日同上ニツキ海軍大臣告
 示アリ
 五月五日 清祓執行夜招魂式 六日例大祭並臨時祭勅使參向東宮御使アリ
 八月二十日 拜殿並神饌所奏樂所地鎮祭及起工奉告祭執行
 十月二日 幄舎奏樂所手洗所等ヲ取除ク 七日暴風颯ヲ剝ギ樹木二百餘株ヲ倒ス
 二十一日二十七八年戰役及臺灣朝鮮國ニ於ケル戰死病疫者ヲ十一月五日招魂式
 六日例大祭並臨時祭執行スベキ旨告示アリ
 十一月五日 招魂式執行 六日例大祭並臨時祭執行 勅使參向東宮御使アリ
 明治三十三年四月二十一日 臺灣守備隊戰死者及二十七八年戰役戰死者維新殉難者
 ヲ來五月五日招魂式六日例大祭並臨時祭執行スベキ旨告示セラル 此月神殿南側
 ノ倉庫ヲ移轉ス

五月三日 海軍大臣ヨリ海兵合祀ノ告示アリ 五日、招魂式六日、例大祭、並臨時祭、勅使參向、東宮御使アリ 十三日、拜殿立柱並奉告祭執行

九月二十八日、大風災ヲ剝ギ、樹木五十餘株ヲ倒ス

十月十七日、拜殿上棟式並奉告祭執行

十一月六日、例大祭、勅使參向、東宮御使アリ

明治三十四年三月、私設消火栓ヲ設ク

四月七日、遊就館觀覽料ヲ教員ノ引率スル學生ニ限リ半額トス

五月五日、例大祭清祓ハ拜殿造營中ニ付本殿ノ南側ニテ行フ伏見宮殿下參拜アリ

六日、例大祭東宮御使アリ 八日、久邇宮王子相撲ノ台覽アリ

九月十八日、自今競馬場廢止ノ旨達アリ

十月三日、拜殿其他落成ニ付兒玉陸軍大臣以下大藏委員長等出張見分ノ上引繼アリ

五日、拜殿造營竣工奉告祭執行、大藏委員長以下參列 十四日、境内ニ巡查派出所ヲ設ケ巡查二名ツ、派出ス、本日ヨリ社丁不寢番ヲ廢シ二名宛宿直セシム 十六日、

三十三年清國事變及二十七、八年戰役戰病死者合祀ノ告示アリ 十九日、同合祀ニツ

キ來三十一日招魂式十一月一、二、四、五ノ四日間臨時大祭執行スベキ旨達アリ 二十

六日、玉塚榮次郎境内全圖銅版ヲ獻納ス 二十七日、内匠寮技師木子清敬神路山ノ榊杉

檜ノ苗數本ヲ獻納シ玉垣内ニ植ウ、本日本殿拜殿ニ翠簾ヲ掲グ、裝飾漸ク成ル 三十一日、清祓招魂式

十一月一日、臨時大祭執行、勅使參向、東宮御使アリ 二日、大祭執行、皇族參拜アリ

四日、五日、大祭執行、コノ臨時大祭ニ 兩陛下ヨリ金貳千圓御下賜アリ 國庫ヨリ金

一萬五千圓支出セラル、委員長ハ野津陸軍大將ナリ 六日、例大祭、勅使參向、東宮御使

アリ

明治三十五年三月、村上鶴藏ヨリ國光館ヲ牛ケ淵ニ建設シ寄附センコトヲ願出ツ

二十六日、主典定員及神職給與規定ヲ定メラル

四月二十五日、遊就館事務所ノ附屬舍及假戰利品陳列場成ル

五月一日、國光館竣工獻納ス、同日村上鶴藏へ同館取締ヲ命ズ 六日、例大祭、東宮御

使如例、伏見宮御參拜アリ 七日、北白川宮、久邇宮二王子御參拜、餘與相撲台覽アリ

六月十八日、林友幸ヨリ圖書館建設奉納ノ件出願アリ

七月三十一日、遊就館書記ヲ二名トシ國光館規則ヲ定メ遊就館ノ附屬トス

八月四日、遊就館並國光館規定ヲ定メラル

九月九日、能樂會々頭伯爵土方久元ヨリ能樂堂建坪三百四十一坪五合ノ獻納願出ツ 二十八

日、大風本殿ノ葺ヲ剝ギ、樹木百二十餘株ヲ倒ス

十月二十二日 本日ヨリ五日間赤十字社々員ニ拜殿ノ拜觀ヲ許ス
 十一月六日 例大祭、勅使參向、東宮御使如例
 十二月二十四日 祭典ニ伶人拜借ヲ式部職ニ出願許可アリ
 明治三十六年一月一日 小祭ニ樂ヲ奏スルコト明治八年ヨリ中絶セシヲ本年ヨリ再興ス 六日、本年ヨリ幣帛神饌料改定セラル旨式部長官ヨリ通知アリ 十五日、能樂堂寄附ノコトヲ聞召サレ 皇后陛下ヨリ思召ヲ以テ金壹千圓ヲ賜フ
 二月三日 積雪梅林中ノ四阿舎ヲ倒ス 六日、物品會計規則ヲ施行ス遊就館、國光館亦同シ
 三月九日 社務所ノ門成ル
 五月六日 例大祭、東宮御使如例 七日、伏見宮、北白川宮、久邇宮若宮御參拜相撲台覽アリ 十八日、故元帥小松宮彰仁親王殿下遺物遊就館へ出陳アリ
 七月二十七日 經理事務囑託員ヲ置ク
 十月十四日 境内巡查派出所ノ件許可セラレ二名ツ、派出ス 十五日、能樂堂工事成本日、奉告祭執行 此月、神樂殿ヲ手水舎ノ後方ニ移轉ス
 十一月六日 例大祭、勅使參向、東宮御使如例 十一日、築山ノ瀑布及ビ池中ノ噴水ニ對シ無料給水ノ旨市長ヨリ申込アリ

十二月七日 相撲場ヲ現今ノ地ニ改設ノ件許可アリ
 明治三十七年一月九日 相撲場工事ヲ始ム、本日午後勅員令ヲ發セラル 十一日、電話ヲ架ス 二十五日、相撲場貸與規則ヲ定ム
 二月十五日 宣戰奉告ノ爲メ、勅使差遣セラル、兩省ヨリ掛官出張參列、其式、新年祭ニ準ズ 本月ヨリ毎月二十日開戦中全勝祈禱祭ヲ行フ、其式、小祭ニ準ズ
 四月一日 本日ヨリ正門大燈籠へ毎夜點火スルコト、ス 十五日、經理取扱手續改正 二十一日、二十七八年役並臺灣北清事變死者招魂式五月五日、六日合祀祭執行ノ旨告示アリ
 五月五日 招魂式 六日、例大祭、並合祀祭 勅使參向、東宮御使如例 七日、北白川宮山階宮相撲台覽アリ 十七日、圖書館設計模樣替ヲ認可ス 二十日、國光館觀覽料ヲ減額ス
 九月十五日 神池ノ大修理ヲナス
 十月二十五日 本日ヨリ十日間相撲場北側石垣ヲ修理ス
 十一月六日 例大祭、勅使參向、東宮御使如例 七日、獨逸皇族、フオン、ホー、ヘン、ツオル、レルン、殿下遊就館觀覽アリ
 明治三十八年二月 遊就館肖像掲額寸法ヲ規定ス 特官巾二尺二寸、壁三尺以上、巾一尺五寸、壁巾二尺二寸、壁三尺以上、巾一尺五寸

二尺五寸

三月五日 國光館ヲ望月久要へ貸與ス 三十一日、能樂堂貸與規則中改正

四月十一日 臨時大祭執行ニ付金五萬圓特別寄附ノ旨達アリ 二十八日、三十七、八年戰役戰死病歿者五月二日招魂式 三日ヨリ五日迄臨時大祭執行スベキ旨告示アリ

五月一日 行幸下檢分トシテ式部官ノ出張アリ 二日、招魂式 三日、臨時大祭執行 妃勅使參向アリ 天皇 皇后兩陛下ヨリ祭資料金參千圓ヲ賜フ 皇太子殿下ヨリ大鏡餅二臺清酒十樽ヲ供ヘラル 四日、臨時大祭執行 天皇陛下御名代トシテ伏見宮殿下臨マセラル 皇后陛下御名代トシテ閑院宮妃殿下臨マセラル、皇族ニテハ閑院宮殿下始四殿下三妃殿下御參拜アリ、内閣各大臣參謀總長以下參列ス、此日閑院宮殿下御本殿前中庭ニ月桂樹ヲ御手植遊バナル、コノ樹ハ三田育種場長ノ寄附スル所ナリ 五日、臨時大祭 皇太子殿下行啓御參拜アリ 六日、例大祭、東宮御使如例臨時大祭ニ引續キ例大祭ヲ行ハレ此間市中雜鬧ス、コノ祭典委員長ハ伊東海軍大將ナリ 二十九日、式部職ヨリ御羽車ノ送納アリ 三十日、甲子殉難祭々典基金トシテ金五百圓寄附ノ旨伯爵土方久元ヨリ願出ツ

六月十二日 細川侯爵家ヨリ燈籠一對ヲ獻納ス

八月二十日 平和克復セルニヨリ戰勝祈禱祭ヲ廢シ本日戰勝報賽祭ヲ行フ

十月三十一日 軍艦日進ヨリ樺太、コルサコフノ松一株ヲ獻植ス

十一月六日、例大祭勅使參向東宮御使如例 本日山階宮ヨリ花火百五十發奉納打揚アリ 二十五日、池田侯爵ノ發起ニテ同縣出身ノ合祀祭神千七百餘柱ノ祭典ヲ行フ

十二月十一日 平和克復奏告ノ爲メ勅使參向アリ、祭式新嘗祭ニ準ズ

明治三十九年一月 電車道開築ノ爲メ國光館ヲ移轉ス

二月十五日 神饌所増築社務所屬館建築舊馬場北方連鎖設置著手 二十六日、磯村貞吉ヨリ招玉樹一株ヲ獻ス 二十七日、三十七、八年役戰病死者合祀ノ告示アリ

四月九日 西内成卿ヨリ吉野櫻二十五株ヲ獻納ス 十日、神饌所増築落成 十二日、臨時大祭費金六萬五千圓特別寄附アリ 十三日、華族會館長ヨリ花崗石燈籠ヲ獻納ス此日經理取扱手續ヲ經理規定ト改正ス 十六日、社務所附屬館及舊馬場北方連鎖設置成ル 十九日、三十七、八年役戰病死者合祀ノ告示アリ

五月一日 清祓式並招魂式 二日、臨時大祭、勅使參向アリ 三日、臨時大祭、此日 天皇 皇后兩陛下行幸啓アラセラル本殿前松樹ノ下ナル御休憩所ニテ陸海軍大臣大祭委員長及宮司ニ拜謁仰付ラル 四日、臨時大祭執行 東宮殿下行啓御參拜アリ、常宮、周宮、富美宮、泰宮四殿下御參拜武官、神職遺族へ謁ヲ賜ヒ社務所ニテ御休憩後戰利

品ヲ親給フ、コノ大祭ニ付兩 陛下ヨリ金五千圓東宮殿下ヨリ饅餅二臺清酒十樽並
御玉串料各皇族殿下ヨリ御玉串料清酒五樽御饅餅十三臺ヲ供ヘラル祭典委員長ハ
野津元帥ナリ 六日、例大祭、東宮殿下御使如例 十六日、迪宮、淳宮ノ二皇孫殿下御參
拜社務所ニ御立寄アラセラル 三十一日、故陸軍中尉桂譽輝ノ私祭々資金百貳拾圓
ヲ遺族ヨリ獻納ス

六月五日 川上陸軍大將銅像及附屬物及同維持費金千百圓ヲ建設委員長井口省吾
ヨリ受領ス 此月牛ヶ淵地所百三十坪七合二勺ヲ市街鐵道株式會社ヘ線路用ニ貸
與ス 十四日、陸海軍兩省ノ名ヲ以テ境內ニ於テ諸商人出店並辯舌等ニテ衆人ヲ集
ムルコトヲ許サズトノ揭示札ヲ建ツ

十月四日 新潟縣西頸城郡生谷村ヘ遙拜所設置ノ件承認ス 十三日、能樂堂貸與規
則ヲ改正ス

十一月六日 例大祭、勅使參向、東宮御使如例

十二月二日 伏見宮殿下能樂堂ニ成ラセラル 十一日、陸軍大臣ヨリ金拾五萬圓特
別寄附ノ件達アリ 十九日、界標建設ノ旨御料局ヨリ通牒アリ立會ノ上境界ヲ定ム

明治四十年一月十五日 上總國中村米吉ヨリ基金トシテ金壹百圓ヲ寄附ス、仍テ木杯
壹組贈與ス

二月十三日 東京知事ヨリ附屬地ノ一部ヲ市區改正道路敷地ニ供用方照會ノ件認
可セラル 二十五日、當社附屬地牛ヶ淵連嶺垣新築ニ著手ス

三月十一日 市區改正ニ付道路敷地トシテ九段坂地所百七十一坪六合及牛ヶ淵地
七百十八坪九合八勺ヲ東京市ヘ還附ス

四月六日 三十七、八年役戰死病者合祀ノ告示アリ 九日、埼玉縣兒玉郡松久村縣社
魏莖神社境內ニ遙拜所トシテ木標設立ノ件承認ス 十三日、西側煉瓦塀新築ニ著手
ス此日五月一日、招魂式二日ヨリ五日間臨時大祭執行スベキ旨達アリ 二十五日、遊
就館第三回大増築起工ヲ企ツ

五月一日 清祓、招魂式執行 二日、臨時大祭、勅使參向アリ 三日、臨時大祭 天皇
皇后兩陛下幸啓御參拜アラセラル、陸海軍兩大臣祭典委員長宮司ニ拜謁仰付ラル

四日、東宮同妃兩殿下行啓常宮、周宮兩殿下御參拜アラセラル、常宮、周宮殿下ニハ事
務所ニ立寄ラセラル神職以下ヘ御菓子ヲ賜ヒ遊就館ヲ台覽セラル 六日、例大祭、勅
使參向、東宮殿下御使如例、同日ノ祭典委員長ハ東郷海軍大將ニシテ 兩陛下ヨリ金
五千圓御下賜、東宮殿下同妃殿下ヨリ清酒十樽御饅餅二臺、四内親王殿下ヨリ各三千
圓各皇族殿下ヨリモ紅白絹五疋御饅餅十四臺御奉納アリ 八日、正面ノ筋塀新築ニ
著手 十二日、遊就館増築及追加工事ニ著手ス

六月十三日 有栖川宮殿下御備能御觀覽ノ爲メ 皇后陛下行啓アラセラレ 皇太子同妃兩殿下各皇族殿下陪覽アラセラレ 二十日、請願巡查ヲ廢シ憲兵上等兵ヲシテ晝間ハ一名夜間ハ二名詰切宮司ノ指揮ノ下ニ警衛セシムルコト、ナル

七月十五日 西側煉瓦塀二百六十五間三尺附屬門三ヶ所工事成ル 二十七日、吉野小三郎出願中ノ新聞雜誌縱覽所落成獻納受領ス

八月二日、新聞雜誌縱覽所規則並縱覽所座席貸與規則ヲ定ム、此日吉野小三郎へ銀盃一組ヲ賞與シ、感謝狀ヲ贈ル 九日、朝鮮國京城公使館ニ於ケル殉難者祭典基金トシテ金百五十拾圓寄附ノ義子爵花房義賢ヨリ願出二十二日許可ス 十日、新聞縱覽所開館 十七日、全國各新聞社へ新聞寄贈ヲ促ス

九月二十日 正面筋塀延長八十四間遊就館正面筋塀並門成ル

十一月六日 例大祭勅使參向、東宮殿下御使如例、竹田宮殿下御參拜アリ

十二月三十一日 牛ヶ淵連鎖垣延長二百十八間新築成ル

明治四十一年三月二十日 正面下水工事遊就館内外敷石工事ニ著手ス

四月九日 大降雪樹木倒ル、コト無數櫻花狼藉ヲ極ム 十三日、三十七八年戰役傷病死者合祀ノ告示アリ 二十三日、來五月四日招魂式五六兩日臨時祭執行スベキ旨達アリ 此月臨時祭ニ付金壹萬圓特別寄附アリ

五月四日 招魂式 五日、臨時祭執行、勅使參向、東宮殿下御使如例 兩陛下ヨリ祭資金貳千圓ヲ下賜セラレ 六日、臨時祭並例大祭執行、東宮殿下御使如例、山階宮殿下、本日御埋棺ニ付餘興ヲ中止ス 二十五日、正面下水溝百三十二間三尺遊就館門内外敷石工事成ル

六月二十四日 東伏見宮殿下御催ノ能樂御觀覽ノ爲メ 皇后陛下行啓遊バサレ皇太子殿下同妃殿下、富美宮、泰宮兩殿下各皇族殿下御陪覽遊バサレ

八月二十五日 森林太郎外六名へ遊就館整理委員ヲ命ゼラル

九月十一日 境内各門ハ日出開扉日沒閉鎖スルコトニ定ム 二十四日、遊就館大増築落成

十月十日 貴賓圃公衆圃成ル 二十日、遊就館供待所成ル 二十八日、遊就館觀覽料ヲ五錢ニ改ム 三十日、神殿周圍高欄椽及昇階段成椽延長二百二十三尺、同日遊就館裏門同館窓日覆敷物備付器具及脇門玉垣、塀、觀覽券賣下場及物品預小屋入口前車寄成ル 三十一日、遊就館板塀工事成ル

十一月三日 遊就館陳列品整理ス仍テ新舊館ヲ通シテ觀覽セシム 六日、例大祭、勅使參向、東宮御使如例 二十日、奉納圖書館建設ニ著手ス 二十四日、拜殿前中門ヲ改築ス

十二月 遊就館増築ニ際シ銃砲等陳列盡力不尠ニ付大槻勝藏へ金壹萬疋賞與ス
明治四十二年一月四日 陸軍大將寺内正毅同乃木希典以下數名遊就館ヲ巡視アリ
三月一日 宮司賀茂水穂從五位ニ叙ス同日卒ス特ニ祭資料ヲ賜フ 二十九日賀茂
百樹宮司仰付ラル
四月二十日 三十七八年戰役及韓國暴徒鎮壓ノ爲死歿シタル者來五月四日招魂式
五日六日臨時祭執行ノ旨告示アリ 二十七日常宮周宮兩殿下御親筆ノ日電戰死者
名簿四帖紫縮緬幕一張ヲ兩殿下ノ思召ヲ以テ御養育主任侯爵佐々木高行ヨリ奉納
アリ 此月臨時祭典費金八千圓國庫ヨリ特別寄附アリ
五月四日 清祓招魂式 五日臨時祭執行勅使參向東宮御使如例 兩陛下ヨリ祭資
料金壹千五百圓下賜セラル竹田宮朝香宮北白川宮久邇宮各殿下御參拜アリ 六日
例大祭東宮御使如例 此月能樂堂食堂成
六月十二日 伏見宮御催ノ能樂御觀覽ノ爲 皇后陛下行啓東宮同妃兩殿下各親王
王殿下御陪覽アリ
七月二十六日 子爵大村德敏外數名ヨリ故兵部大輔大村益次郎銅像ヲ獻納ス
八月一日 本日ヨリ一週間常宮周宮兩殿下御奉納アラセラレシ名簿ヲ拜觀セシム
十一月六日 例大祭勅使參向東宮御使如例

十二月九日 奉納圖書館ノ建物奉納祭執行建物ヲ受納ス此日公爵伊藤博文ノ遺品
香爐ヲ同家ヨリ獻納アリ 二十七日內務省ヨリ遊就館へ國寶ヲ出陳ス 此月社務
所土藏ノ大修理ヲ行フ
明治四十三年一月一日 陸海軍下士以下ハ遊就館觀覽料無料トナル 八日始メテ內
務省出陳ノ國寶ヲ公衆ニ觀覽セシム此日 皇太子殿下同館へ行啓アラセラレ宮司
へ拜謁ヲ許サレ金五千疋下賜セラル
四月一日 遊就館々則發布セラル 二日神社及遊就館處務規程並會計規則遊就館
寄附寄託品取扱規則等ノ發布アリ同日處務規程改正ノ結果主典ヲ増員シ四名ノ社
掌四員ヲ置キ經理事務囑托及社丁ヲ廢ス 八日陸軍少將瀨名義利遊就館長仰付ラ
ル 十二日やまど新聞社主催ニヨリ櫻田事變ニ於ケル十六烈士ノ祭典ヲ執行ス當
日閑院宮久邇宮北白川宮朝香宮竹田宮五殿下ノ御參拜アリ 二十日三十七八年戰
役及韓國暴徒鎮壓事件ニ死歿セル軍人軍屬百四十一名ヲ來五月合祀ノ旨告示アリ
此月ヨリ五六月ニ至ルマデ舊馬場大修繕ヲ行ヒ砂利ヲ敷ク
五月五日 清祓招魂式 六日臨時祭並例大祭勅使參向東宮御使如例 兩陛下ヨリ
金百圓御下賜祭典資金參千五百圓特別寄附アリ 二十三日奉納圖書館內部備品圖
書等ヲ受納シ遊就館ニ附屬セシム此日富岡政信へ同館事務囑託ヲ命ズ

六月十日 開院宮御催ノ能樂アリ 皇后陛下行啓東宮同妃兩殿下及各殿下御陪覽
アリ 十七日、鳥取縣人寛雄平ヨリ金百圓獻納ニ付木盃壹組ヲ賞與ス

追 加

六月二十七日、石川縣能美郡小松町へ本神社遙拜所建設ノ件認可ス

七月七日、附屬圖書館開館ニ付陸軍省副官山田歩兵大佐、海軍省副官井出海軍大佐等
出張 十六日附屬圖書館開館

八月三十日 賀茂宮司遊就官國寶監守ヲ辭シ、瀬名館長其後任トナル

九月六日、自今月並祭ニ廢兵參拜ス 十五日、韓國併合奉告祭執行、陸軍省ヨリ高須歩
兵少佐、海軍省ヨリ中村海軍中佐等參列

十月七日、遊就館屋根大修繕工事ヲ大倉組へ約ス、能樂堂屋根修繕及同洋便所新築、舊
便所模様替等ニ着手 二十四日、祭神名簿索引編纂ノ件認可アリ 三十日、本日ヨリ

來十一月四日マデ圖書館内圖書陳列替ノ爲メ閉館

十一月六日、例大祭勅使○奉典北參向、東宮御使○東宮武官如例

十二月三日、社務所事務室模様替工事着手 九日、富岡政信圖書館囑託辭職ニツキ特
別賞與金並銀杯ヲ授與ス 二十九日、遊就館審査委員今村長賀死去

明治四十四年一月二十六日、宮内省御用掛竹中公鑒ニ遊就館審査委員ヲ囑託ス

二月十六日、神殿拜殿等ノ紫縮緬幕四張調製

三月九日、能樂堂貸與規則改正並、中賣從業者規則ヲ定ム 十日、陸軍記念日ニツキ祭

典ヲ行フ、爾來恒例トス、マタ此日帝國在郷軍人會ノ祭典ヲ行フ 十九日、有志會シテ

能樂堂ニ於テ古事記撰上千二百年記念祭ヲ行フ 二十九日、遊就館家屋根全部修繕

工事完了、コノ金額五千四百八拾八圓七拾貳錢

四月十七日、朝鮮暴徒鎮壓(二十七名並臺灣土匪及生蕃討伐(百十二名)ニ從事シ死歿シ

タル者ヲ特旨合祀 仰出サル 二十一日、臺灣土匪及生蕃討伐ニ從事シ、死歿シタル

警察官吏(四百八十五名)ヲ特旨合祀 仰出サル 二十二日、來ル五月四日招魂式、同五

日臨時祭執行ノ旨告示アリ 二十五日 本社基金ノ内へ金參拾圓ヲ寄附セシ、愛知

縣人佐々木政太郎へ木杯壹個授與ス 二十六日、臺灣土匪並生蕃討伐ニ從事シ、死歿

シタル警察官吏(七名)ヲ特旨合祀 仰出サル 二十八日、臺灣總督府ヨリ臨時祭典ニ

ツキ金壹萬圓寄附アリ

五月四日、清祓式、夜臨招魂祭舉行 五日、臨時祭、勅使○掌典男爵參向、東宮御使○東宮

御田村アリ 兩陛下ヨリ祭資料金千五百圓下賜、各宮殿下ヨリ金百圓御奉納、國庫ヨ

リ金千五百圓ノ特別寄附アリ 六日、例大祭、東宮御使○東宮武官各宮ノ御供如例

八日、帝國軍人後援會祭典ヲ行フ 二十七日、海軍記念日ニ付祭典ヲ行フ、爾來恒例トス

六月十日、能樂堂ニ於テ竹田宮殿下御主催ノ能樂アリ、皇后陛下、東宮殿下、行啓、竹田宮同妃、朝香宮、伏見若宮妃、閑院宮妃、各殿下ノ台臨アリ 十七日、陸地測量部ニ依屬シ、本社々地ヲ測量ス 十九日、颶風本殿ノ葺ヲ剝ギ、木ヲ倒ス

七月二十五日、本殿屋根大修理ニヨリ夜八時御遷座式舉行、陸軍省ヨリ高須步兵少佐、海軍省ヨリ坂本海軍中佐等參列ス 二十六日、午前二時颶風起リ本殿ノ葺ヲ剝ギ、殿内雨漏アリ倒木多シ

八月一日、本殿屋根大修繕工事ヲ清水滿之助ヘ約ス 五日、陸軍技師田村鎮、陸軍技師松尾民藏ヘ本殿修繕工事監督ヲ命ゼラル 二十一日、武市彦太郎ヘ本殿修繕工事監視ヲ命ズ

十月九日、馬繫舎修繕 二十八日、本殿銅葺、左右釣庇及樋改修ニ着手

十一月二日、内陣修築工事及御帳臺御帳等改調ニ着手 四日、靖國神社一覽成ル 六

日、例大祭勅使前田利豐參向、東宮御使山岡豐一各宮ノ御供如例 七日、福岡縣人

中川秋骨ヨリ本社基金ノ内、金壹千圓寄附 十五日、維新前原田七郎小倉

源ニ正五位ヲ上中野方藏ヲ贈ラ

明治四十四年十二月二十四日印刷
明治四十四年十二月二十六日發行

發行兼
編輯者 **靖國神社**

東京市麴町區富士見三丁目一番地
代表者宮司 **賀茂百樹**

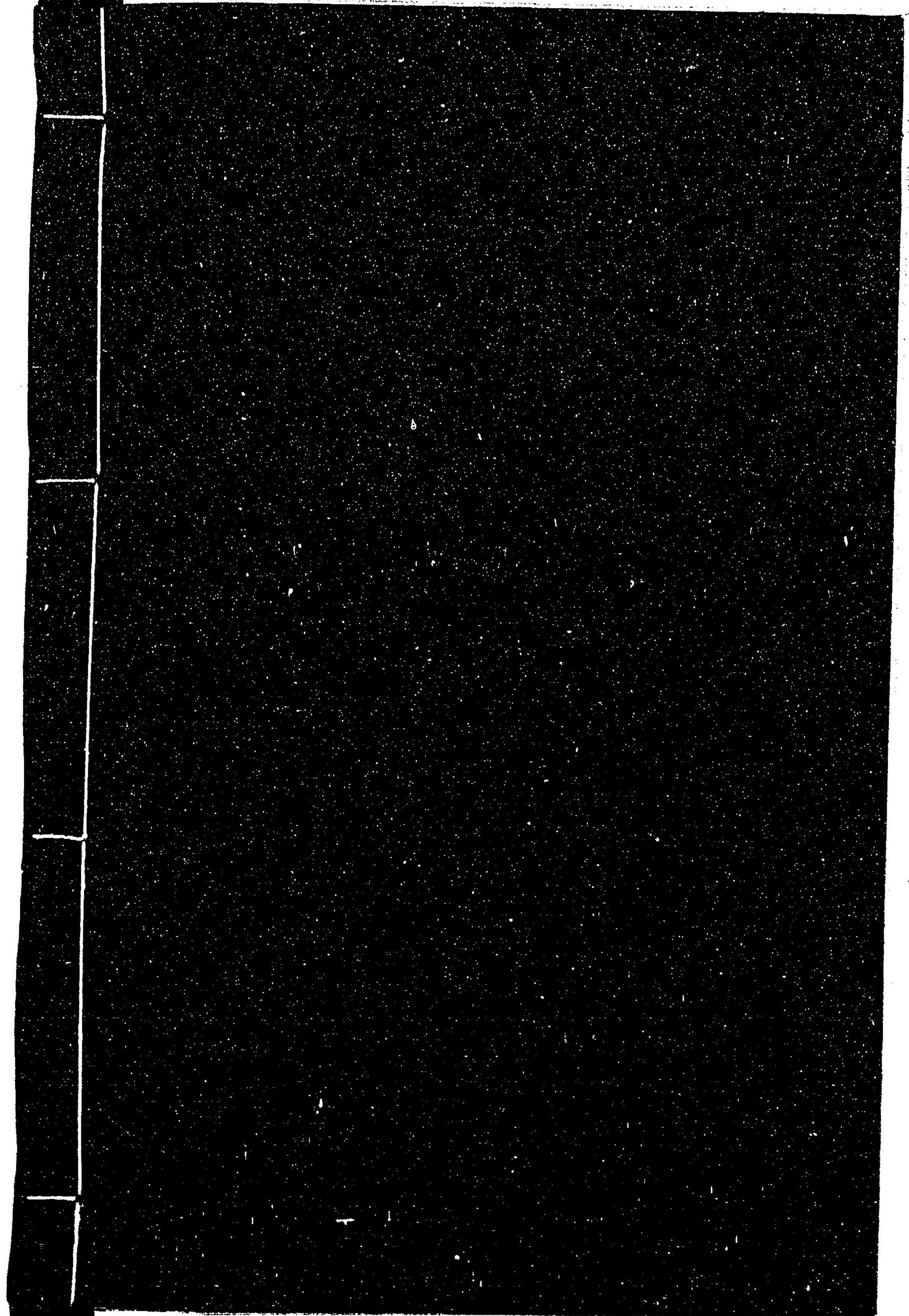
東京市麴町區隼町四番地
印刷者 **小林又七**

電話番町一六二九番

陸軍省構内
印刷所 **川流堂小林又七印刷所**

電話新橋九四一番

249
44



014680-000-8

249-44

靖国神社誌

賀茂 百樹/編

M44

ABB-1115

